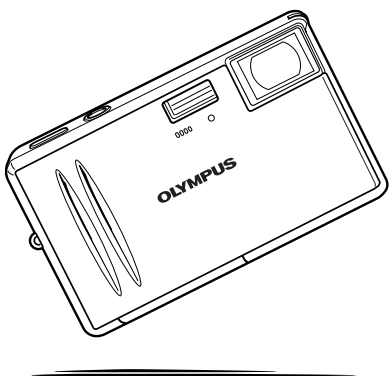
CAMEDIA
デジタルカメラ

OLYMPUS®

AZ-2 ZOOM

取扱説明書 応用編



1 基本操作
2 撮影前に知っておきたいこと
3 いろいろな撮影のしかた
4 さらにきれいに撮るために
5 再生する
6 設定・機能をカスタマイズする
7 プリントする
8 パソコンに取り込む
9 付録
10 資料

●この取扱説明書は、撮影・再生機能やカメラの機能・設定のカスタマイズ、撮った画像のパソコンへの取込みなど応用的なテクニックについて説明しています。
●ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
●取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

本書の使い方

本書では、使いたい機能・知りたい機能をすぐに検索できるように、もくじ、索引、メニュー一覧のページが用意されています。

もくじから探す ☞ P.4

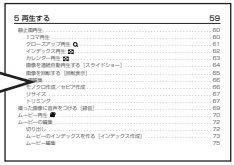
本書の全タイトルが並べられています。カメラを使い始める前に読む章や、撮影の基本操作を覚えたいときに読む章などの目的別に構成されています。

こんなときに

撮影した画像を再生したい

↓

「5 再生する」の章から「静止画再生. . . . .60」のページを検索します。



5 再生する 59
静止画再生 60
1コマ再生 60
クロースアップ再生 61
インデックス再生 62
カレンダー再生 63
画像を連続自動再生する（スライドショー） 64
画像を回転する（回転表示） 65
編集 66
マイクロ作成／セピア作成 66
リサイズ 67
トリミング 67
撮った画像に音声でコメント（録音） 69
ムービー再生 70
ムービーの編集 72
切り出し 72
ムービーにインデックスを付ける（インデックス作成） 73
ムービー編集 75

索引から探す☞ P.176

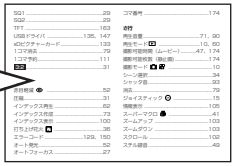
本書を読んでいて、分からない言葉や知りたい言葉がでてきたときに、索引からその用語を使っているページを探すことができます。カメラの各部の名称や液晶モニタに表示される内容の一覧も巻末に集められています。

こんなときに

「情報表示」について知りたい

↓

「情報表示. . . . .105」のページを検索します。



SQ1 29
SQ2 29
TFT 163
USBケーブル 135、147
xDピクチャーカード 33
1コマ消去 79
1コマ予約 111
29 31
あ行
赤目軽減 52
圧縮 31
インデックス再生 62
インデックス作成 73
インデックス表示 100
打ち上げ花火 36
エラーコード 129、150
オート時刻 52
オートフォーカス 27
コマ番号 174
さ行
再生音量 71、90
再生モード 15、60
撮影可能時間（ムービー） 47、174
撮影可能枚数（静止画） 174
撮影モード 10
シーン選択 34
シャッター音 93
消去 79
ジョイスティック 15
情報表示 105
スーパーマクロ 41
ズームアップ 103
ズームワロン 103
スクロール 102
スタミナ優先 49

メニュー一覧から探す ☞P.166

カメラのメニュー名がツリー構造で記載されています。メニューを操作しているときに、知りたいメニュー名がでてきたときはメニュー一覧からその機能の説明ページを探すことができます。

こんなときに

メニュー画面にある[ホワイトバランス]ではどんな設定をするの？

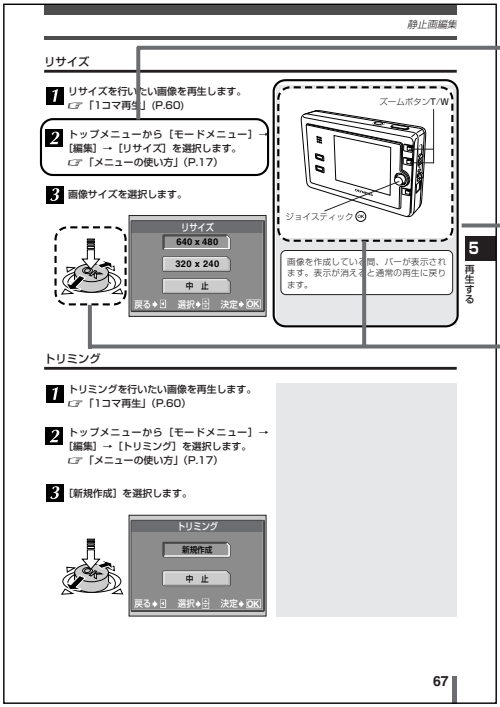
↓

メニューの操作順を追って「ホワイトバランス. . . . .P.57」のページを検索します。

メニュー一覧
●撮影メニュー（モード）
トップメニュー タブ 項目 選択肢 参照ページ
オートメニュー 撮 ホワイトバランス 自動、 P.40
マクロ 自動、 P.41
測光 評価、スポット P.55
連写/撮影 1コマ撮影、連写 P.56
ドライブ 単写、連写 P.43
ISO感度 自動、80、100、200、400 P.54
デジタルズーム 標準、オン P.40
スタミナ設定 標準、オン P.49
ハイクラ 自動 P.44
自動スタート 入 P.46
撮 ダイナミックランス 自動、晴天、曇天、電球、蛍光灯 P.57
ムービー フォーマット 標準、動画 P.106
設定確認 下5、記録時間 P.82

・本書の操作説明ページの読み方は、「操作説明ページの見方」(☞P.3)をご覧ください。

操作説明ページの見方



メニューは矢印の順に操作します。(P. 17)

右のグレーの部分には、操作説明への補足やヒントなどが書いてあります。

操作が必要なボタンとその位置がわかるように表記しています。

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

ⓘ	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

もくじ

本書の使い方 2
操作説明ページの見方 3

1 基本操作 9

モードスイッチの使い方 10
ボタンの使い方 11
　ボタンの操作 11
　ジョイスティックの操作 15
メニューの使い方 17
　操作方法 17
　メニューの種類 22

2 撮影前に知っておきたいこと 25

ピントが合わないとき 26
　ピント合わせの方法 26
　オートフォーカス（AF）が苦手な被写体 28
画質モードを選択する 29

3 いろいろな撮影のしかた 33

撮りたいものに合わせて設定する 34
　夜景 34
　夜景&人物 35
　風景 35
　記念撮影 35
　パーティショット（屋内で撮る） 36
　打ち上げ花火 36
　ポートレート（人物を撮る） 36
　セルフポートレート（自分にカメラを向けて撮る） 37
　料理 37
　スポーツ(動きのはやいものを撮る) 37
　ビーチ&スノー（海辺や雪山で撮る） 38
　寝顔（暗いところでフラッシュを使わず撮る） 38
　夕日 38
遠くものものを拡大して撮る 39
　光学ズーム 39
　デジタルズーム 40

小さなものを拡大して撮る［マクロ］ 41
セルフタイマー 42
連写［ドライブ］ 43
パノラマ 44
合成ツーショット 46
ムービーを撮る 47
撮影に合わせて音声を記録する 49

4 さらにきれいに撮るために 51

フラッシュ 52
ISO感度 54
明るさを測る範囲を変える［測光］ 55
画像の明るさを変える［露出補正］ 56
画像の色合いを調整する［ホワイトバランス］ 57
手ぶれ補正 58

5 再生する 59

静止画再生 60
1コマ再生 60
クローズアップ再生 61
インデックス再生 62
カレンダー再生 63
画像を連続自動再生する［スライドショー］ 64
画像を回転する［回転表示］ 65
静止画編集 66
モノクロ作成／セピア作成 66
リサイズ 67
トリミング 67
撮った画像に音声をつける［録音］ 69
ムービー再生 70
ムービーの編集 72
切り出し 72
ムービーのインデックスを作る［インデックス作成］ 73
ムービー編集 75
テレビで画像を再生する 77
画像にプロテクトをかける（誤消去防止） 78
画像を消去する 79
1コマ消去 79
全コマ消去 80

6 設定・機能のカスタマイズ 81

カメラの設定を記憶する［設定保持］ 82
表示する言語を切り替える 84
起動画面を変える［PW ON 設定］／［PW OFF 設定］ 85
起動画面を登録する［画面登録］ 87
撮影後すぐに画像を確認する［レックビュー］ 89
再生音量を設定する［再生音量］ 90
警告音を設定する［ビープ音］ 91
操作音を設定する［操作音］ 92
シャッター音を設定する［シャッタ音］ 93
ファイル名をリセットする［ファイル名メモリー］ 94
画像処理機能をチェックする［ピクセルマッピング］ 95
液晶モニタの明るさを調整する［モニタ調整］ 96
日付・時刻を設定する［日時設定］ 97
ビデオ出力方式を選ぶ［ビデオ出力］ 99
インデックス画面の分割数を変える［インデックス表示］ 100
スライドショーの種類を選ぶ［スライドショー設定］ 101
画像の詳細情報を表示する［情報表示］ 105
カードをフォーマットする［フォーマット］ 106

7 プリントする 107

プリント予約（DPOF） 108
　プリント予約モードを選ぶ 110
　1コマ予約をする 111
　全コマ予約をする 117
　プリント予約を解除する 119
ダイレクトプリント（PictBridge） 121
　カメラをプリンタに接続する 122
　プリントまでの操作の流れ 124
　プリントモードを選択する 126
　用紙を設定する 127
　プリントする画像を選ぶ 127
　プリントする情報を設定する 127
　トリミングを設定する 128
　プリントする 128
　エラーコード表示がでたときは 129

8 パソコンに取り込む 131

操作の流れ 132
付属のOLYMPUS Masterを使う 134
　OLYMPUS Masterとは 134
　OLYMPUS Masterをインストールする 135
カメラをパソコンに接続する 139
OLYMPUS Masterを起動する 141
カメラの画像をパソコンで表示する 142
　取り込んで保存する 142
　カメラを取り外す 143
静止画／ムービーを見る 145
プリントする 146
OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を転送する 147

9 付録 149

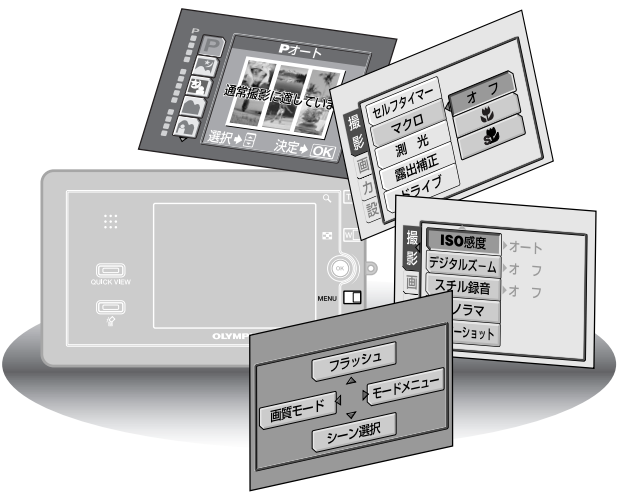
困ったときは 150
　エラーコード表示 150
　故障かな？と思ったら 152
　アフターサービス 156
カメラのお手入れと保管 157
使用上の注意 158
お問い合わせいただく前に（お願い） 161
用語解説 162

10 資料 165

メニュー一覧 166
撮影モード別使用可能な機能 170
各部の名称 172
　カメラ 172
　液晶モニタの表示 173
索引 176

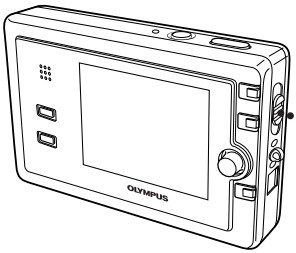
1 基本操作

プロカメラマンの高度な撮影／編集テクニック。それは長年の経験とカメラを微妙に調整することで得られるものです。
デジタルカメラはボタンを操作するだけ。高度な撮影テクニックが可能です。
メニューには、撮影機能がずらりと並んでいます。ピント合わせの範囲を変えたり、ホワイトバランスなどの機能を簡単に使いこなせます。メニューの設定は液晶モニタを見ながら、ボタン操作で行います。各機能の説明を読む前に、まずはボタンとメニューの操作方法をマスターしましょう。



モードスイッチの使い方

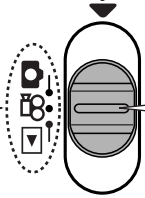
このカメラは以下の3つのモードを備えており、モードスイッチでモードを指定します。
モードにより使える機能が異なります。



静止画撮影モード
静止画を撮影するときに設定します。

動画（ムービー）撮影モード
ムービーを撮影するときに設定します。

再生モード
撮影した画像を見るときに設定します。



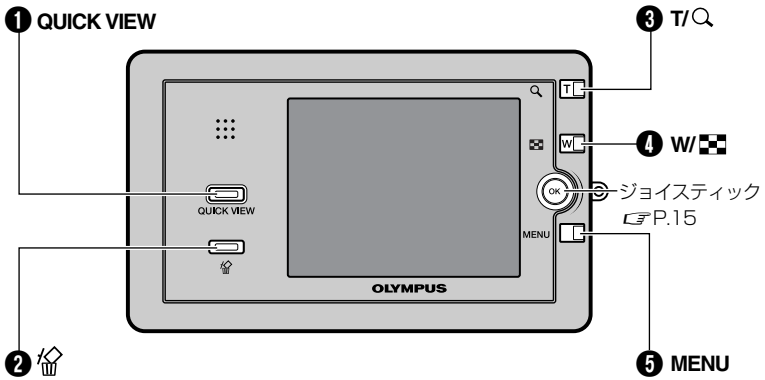
モードスイッチをスライドして、使いたいモードに合わせます。

ボタンの使い方

このカメラは、いろいろな撮影状況に適応できるように、多くの機能を備えています。ボタンで設定するもの（下記参照）とメニューで設定するもの（☞P.17）があります。ボタンやジョイスティックを使って液晶モニタを見ながら設定します。

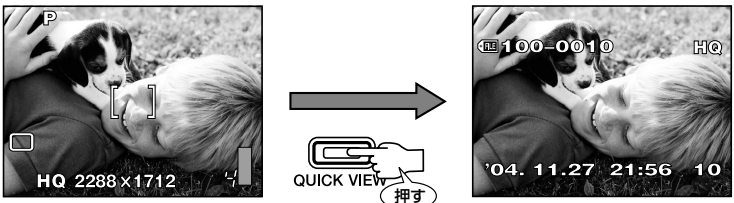
ボタンの操作

1つのボタンで撮影モードと再生モードで異なった機能を持つものもあります。



❶ クイックビューボタン

撮影モードのままで画像を再生します。撮影した画像を確認後、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影に戻れます。

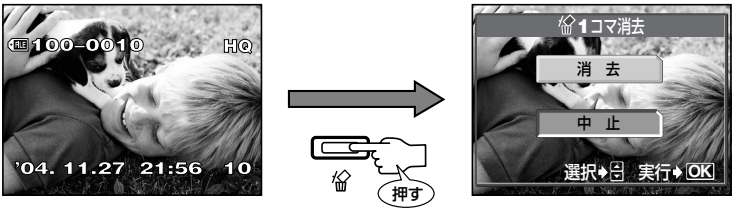


撮影モード　　再生モード

通常の再生モードと同様に各機能が使用できます。

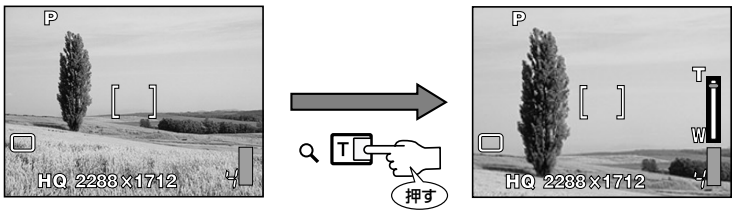
❷ 消去ボタン ☞P.79

再生している画像を消去します。

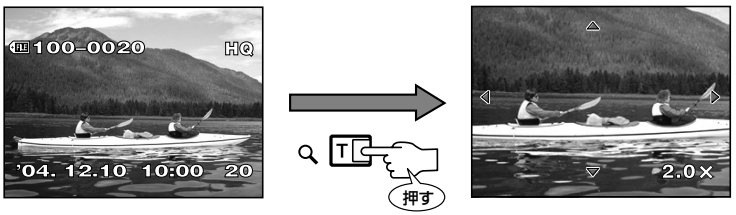


❸ ズームボタンT／🔍 ☞P.39、61

撮影時T：遠くのものを拡大して撮ります。（ズームイン、望遠撮影）

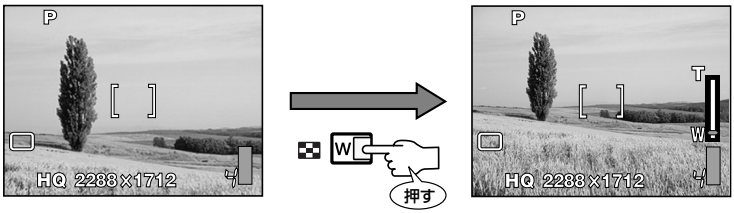


再生時 🔍：クローズアップ（拡大再生）

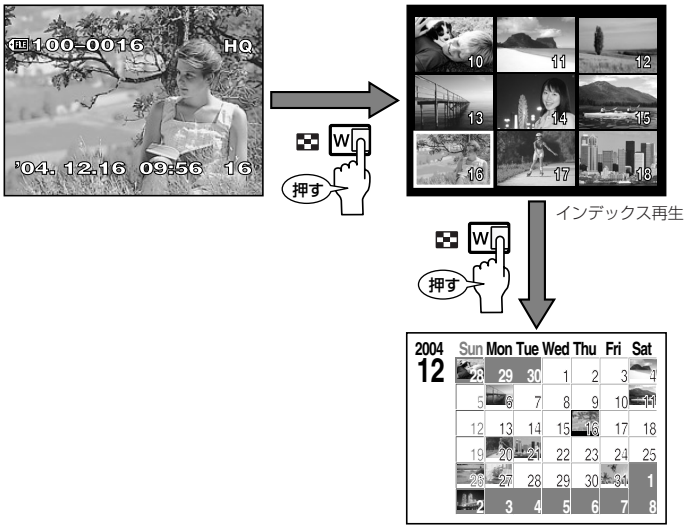


❹ ズームボタンW／▪ ☞P.39、62

撮影時W：より広い画角を撮ります。（ズームアウト、広角撮影）



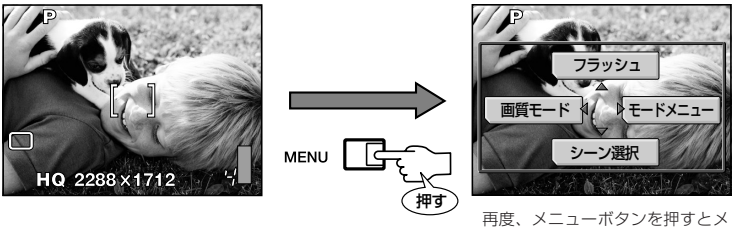
再生時 ▪ ：撮った画像をインデックス表示します（インデックス再生）。また、撮った画像を日付ごとに分類して、それをカレンダー上で表示します（カレンダー再生）。



❺ メニューボタン

☞P.17

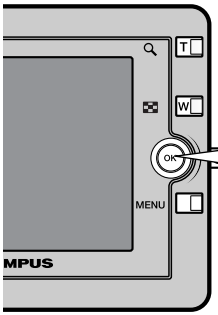
メニューを表示／終了します。



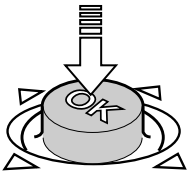
再度、メニューボタンを押すとメニューが終了します。

ジョイスティックの操作

ジョイスティックは、上下左右に動かしたり、押すことができます。この操作で、いろいろな機能をメニューで設定したり、再生時にはコマの選択をします。



上端、下端、左端、右端を、イラストの矢印の向きに押すようにします。

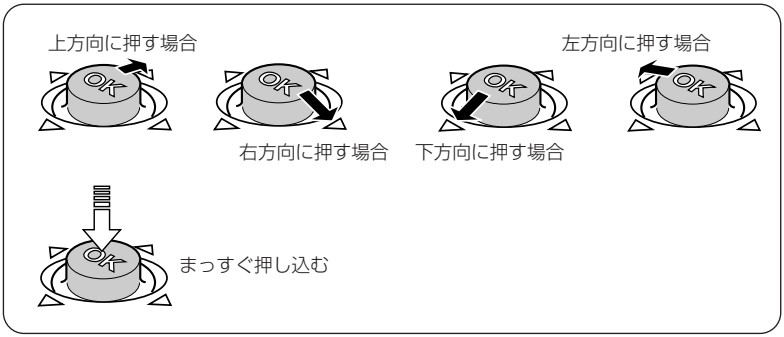


中央部分はまっすぐ押し込みます。

メニューでの設定を確定したり、メニュー内を移動します。☞P.17

再生する画像のコマを選びます。☞P.60

本書の機能の説明では、ジョイスティックの操作を以下のイラストで示しています。

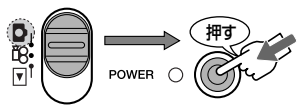


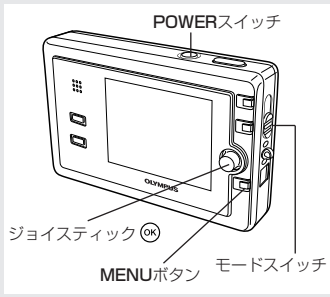
メニューの使い方

カメラの機能を設定します。液晶モニタにメニューを表示して選択・設定をします。

操作方法

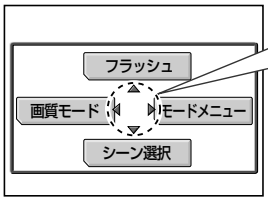
1 モードを選んでカメラの電源を入れます。





2 トップメニューを表示します。

ここでは 📷 モードでのメニュー操作を例にします。



トップメニュー

ジョイスティックの操作ガイドが表示されます。

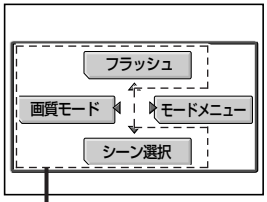
［フラッシュ］の設定画面に進みます。

［モードメニュー］へ進みます。いろいろな設定ができます。☞P.19

［画質モード］の設定画面に進みます。

［シーン選択］の設定画面に進みます。

直接、設定画面に進み機能を設定する



現在の設定が表示されます。

▽ : OK
選択肢にまだ続きがあり、それを表示します。

画面下部には操作ガイドが表示されます。

選択 ↕ : OK
ジョイスティックを上または下方向に押して、選択肢を選びます。

決定 OK : OK
ジョイスティックをまっすぐ押し込んで、選択肢を決定します。

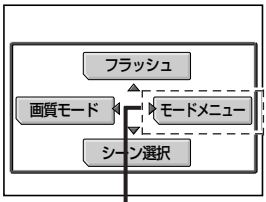
選択 ↕→ : OK
ジョイスティックを上、下または右方向に押して、選択肢を選びます。

中止 ← : OK
ジョイスティックを左方向に押して、設定を中止します。

[フラッシュ] ☞P.52
[画質モード] ☞P.29
[シーン選択] ☞P.34

モードメニューの機能を設定する

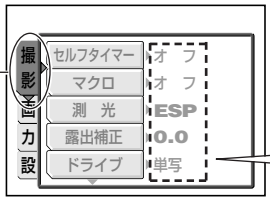
ここでは例として を設定します。



タブ☞P.23
撮影
画像
カード
設定

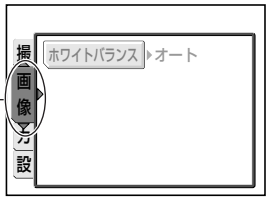
1 タブを選択します。

設定項目が機能ごとにタブで分類されています。



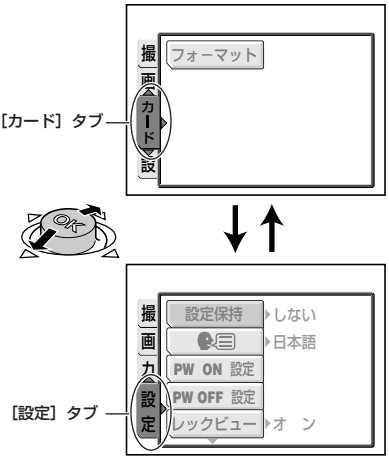
［撮影］タブ

現在の設定が表示されます。



［画像］タブ

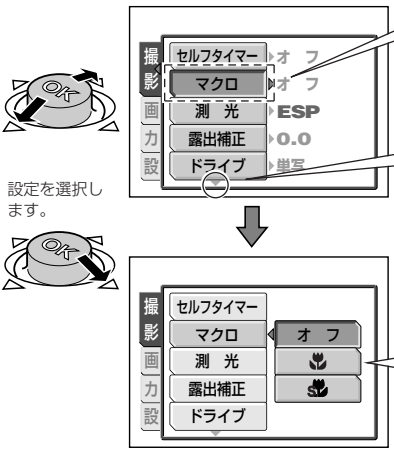
上または下に押してタブ選択します。



タブを選択するとそれぞれのタブの設定項目が表示されます。

2 選択したタブの設定項目に移動します。

3 項目を選択します。

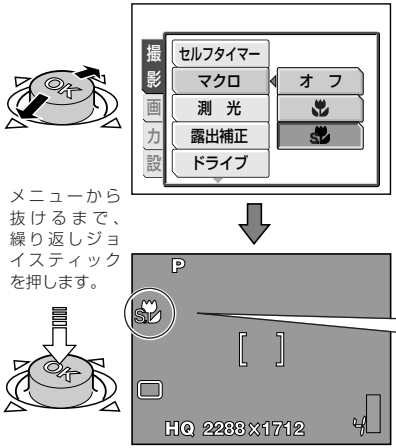


現在、選択している項目

メニュー項目が、［ドライブ］からまだ続きがあることを示しています。

選んだメニュー項目の設定が表示されます。

4 **設定を選択して、確定します。**



通常の撮影画面に戻ります。

設定した内容によっては、マークが表示されます（ここではスーパーマクロ）。

メニュー操作でひとつ前の項目に戻る

メニュー操作説明について

本書ではメニュー操作を次のように表記しています。

モードメニューの機能を設定する場合：

例：トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］→［オフ］または［オン］を選択します。

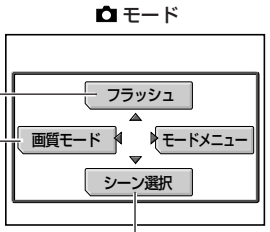
直接、設定画面に進み機能を設定する場合：

例：トップメニューから［フラッシュ］を選択します。

メニューの種類

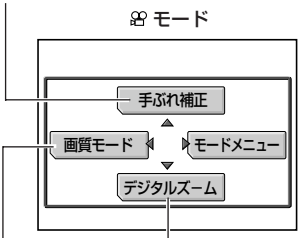
トップメニュー

☞P.52



☞P.29 ☞P.34

☞P.58

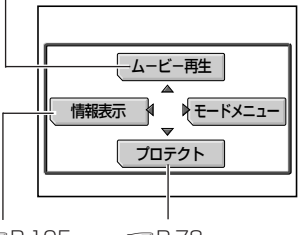


☞P.29 ☞P.40

☞P.64

☞P.105 ☞P.78

☞P.70



☞P.105 ☞P.78

モードメニュー

撮影　：撮影に関する設定をします。
画像　：ホワイトバランスを設定します。
編集　：撮影した画像の編集をします。
カード：カードのフォーマットや全コマ消去をします。
設定　：日時設定や言語選択 など、カメラを使いやすくする機能を設定します。
再生　：再生に関する設定をします。

/ モード

☞P.42

［撮影］タブ

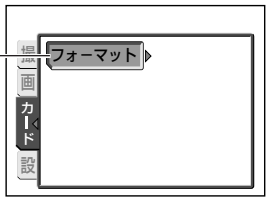
☞P.55　☞P.43　☞P.56　☞P.41

☞P.57

［画像］タブ

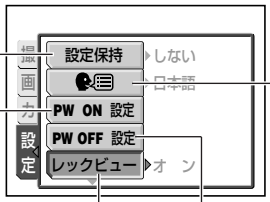
☞P.106

［カード］タブ



☞P.82

［設定］タブ（ モード）



☞P.85　☞P.89　☞P.85　☞P.84

▶ モード

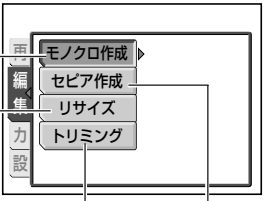
☞P.65

［再生］タブ

☞P.69 ☞P.108

☞P.66

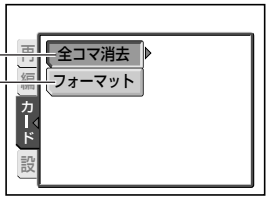
［編集］タブ



☞P.67 ☞P.67 ☞P.66

☞P.80

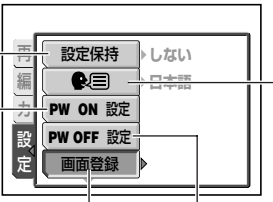
［カード］タブ



☞P.106

☞P.82

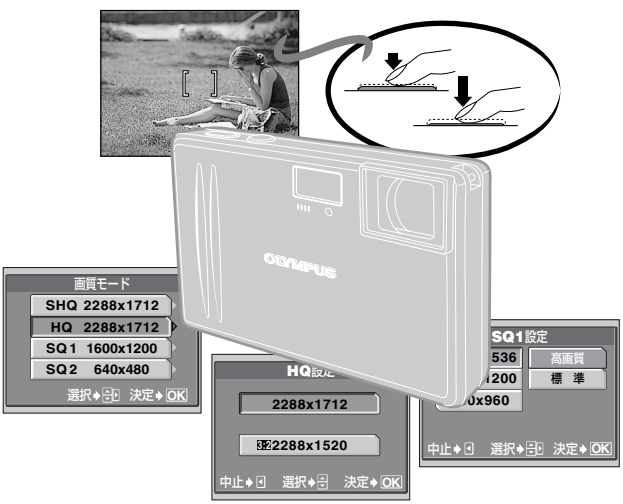
［設定］タブ



☞P.85 ☞P.87 ☞P.85 ☞P.84

2 撮影前に知っておきたいこと

📷 モードにしてシャッターボタンを押すだけで、ほとんどの場合は上手に撮ることができます。それでもピントが合わないときは、カメラが苦手な被写体なのかもしれません。ここでは撮影の基本、ピント合わせの方法を説明します。撮影のコツをしっかり覚えてください。
また、撮った画像をどう使うか、その目的に合わせて画質モードを選ぶことも大切なポイント。「大きくプリントしたら画像が粗くなった」「メールで送りたいのに容量が大きすぎる」— こんなことがないよう、撮影前には画質モードを確認しましょう。

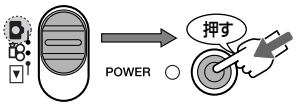


ピントが合わないとき

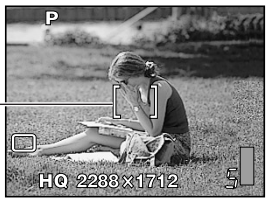
カメラは撮影する構図の中で、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分が構図の中にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

ピント合わせの方法

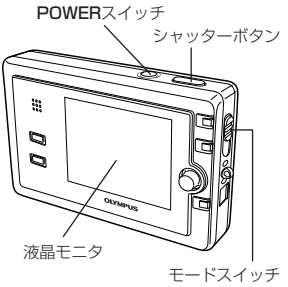
1 モードでカメラの電源を入れます。



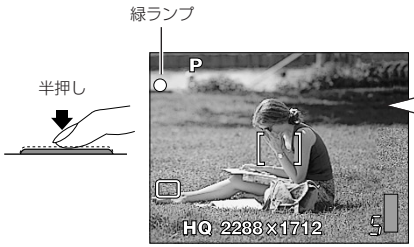
2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。



AFターゲットマーク

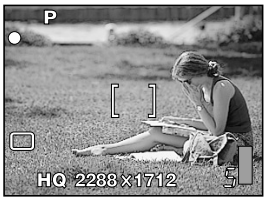


3 シャッターボタンを、緑ランプが点灯するまで半押しします。



被写体にピントが合いにくい場合は、ほぼ同じ距離にあるものでピントを合わせます。

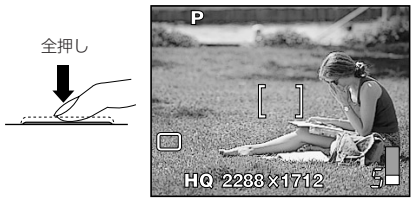
4 半押しの状態のまま撮影したい構図にします。



ピントと露出が固定されます（オートフォーカス）。

シャッターボタンを半押ししたときに緑ランプが点滅していたら
ピントが合っていません。シャッターボタンから指をはなし、構図を変えてもう一度ピント合わせをしてください。

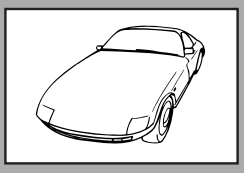
5 シャッターボタンを押し込みます。



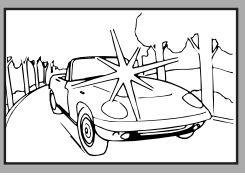
オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

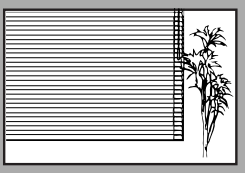
緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません



コントラストがはっきりしない被写体



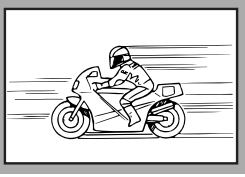
画面中央に極端に明るいものがある場合



縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合



動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

画質モードを選択する

プリント用、パソコンでの加工用、Eメール添付用など、用途に合わせて撮影する画像の画質を設定します。

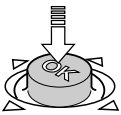
静止画撮影のとき

1 **📷** モードで、トップメニューから［画質モード］を選択します。

☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ［SHQ］、［HQ］、［SQ1］、［SQ2］から選択します。

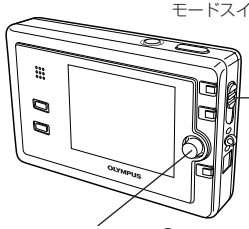
設定を確定する場合



画像サイズを選ぶ場合

3 画像サイズを選択します。

SHQ/HQ設定の場合

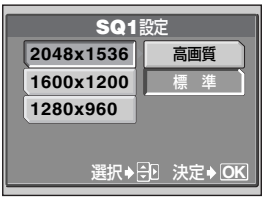


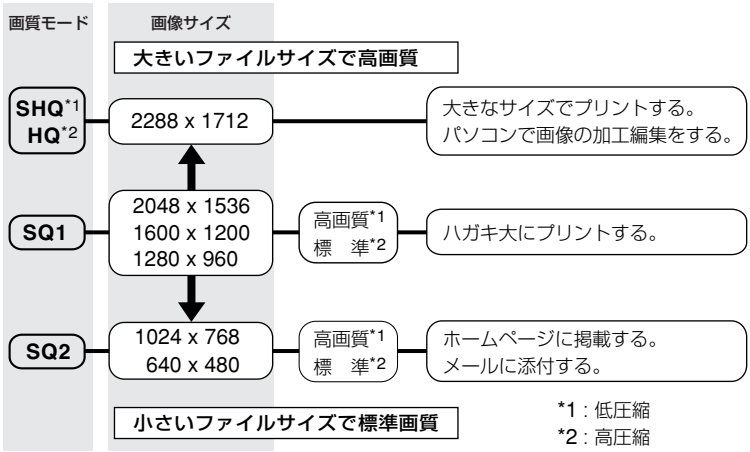
P.31を参照して、用途に合った画質を選んでください。

SQ1/SQ2設定の場合

画像サイズを選択します。

圧縮率を選択します。





3：2

通常、画像の横と縦の比は4：3の比率になっていますが、3：2に設定することで、写真店でプリントする際に画像の端が切れないでプリントできます。

圧縮

このカメラでは、画像を圧縮して保存します。圧縮が高いほど画質は粗くなります。

注意

撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。

動画撮影のとき

1 🎞 モードで、トップメニューから［画質モード］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ［SHQ］、［HQ］、［SQ1］、［SQ2］から選択します。

640 x 480、320 x 240→画像サイズ
30fps→1秒あたりのコマ数

画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768 のとき画像を等倍（100 %）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024 など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

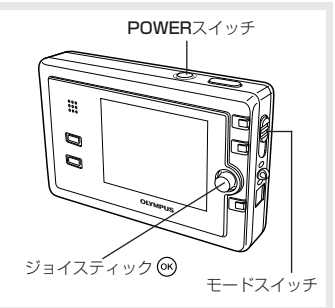
3 いろいろな撮影のしかた

花やアクセサリーなど小さな物をアップで撮影したい、走り回る子どもなど動きの早い被写体をうまく写したい、夜景をバックに撮りたい・・・そんなとき、カメラをどう設定していいか分からず、あきらめてしまったことはありませんか？
このカメラでは、面倒な設定を必要とするような場面でも、メニューで撮影条件に合ったモードを選ぶだけで、簡単に思い通りの写真を撮ることができます。
その他、複数の写真をつなげられる「パノラマ」や、続けて撮影した2枚の写真を1枚に合成する「合成ツーショット」など、デジタルカメラならではのユニークな機能がいっぱい。どんどん撮って、どんどんカメラ撮影の腕を磨いていきましょう。

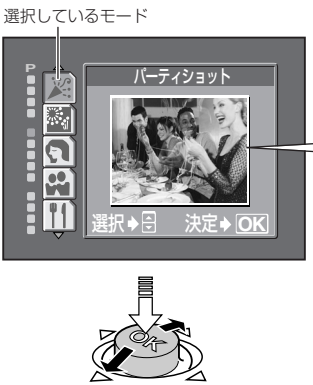
撮りたいものに合わせて設定する

このカメラでは、基本の静止画撮影モード（Pオート）の他に、10種類以上の撮影シーン（☞P.34～38）を選べます。色合いや明るさなどの設定は、撮影シーンごとにあらかじめ決められていますので、シャッターボタンを押すだけの手軽な撮影ができます。

1 **📷 モードで、トップメニューから[シーン選択]を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **撮影シーンを選択します。**



選択している撮影シーンのサンプル画像が表示されます。

夜　景

夜景を撮るのに最適です。
街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので、光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。

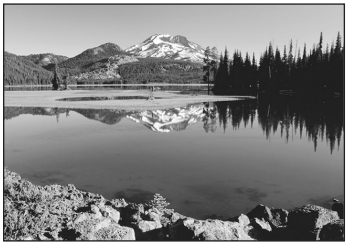
- 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

夜景&人物

夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。

- 夜景&人物撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。
- フラッシュは赤目軽減モードで発光します。
☞「フラッシュ」(P.52)

風　景



風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然の中での撮影には効果的です。

記念撮影

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。

パーティショット

屋内で人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。背景もきれいに再現されます。

打ち上げ花火

夜空に打ち上げられた花火を撮るのに最適です。

- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

ポートレート

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。

セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。

• ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

料　理

料理を撮るのに最適です。料理の色合いをはっきりと再現します。

スポーツ

スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮影することができます。

ビーチ&スノー

晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。
空・緑・人物をきれいに再現します。

寝　顔

薄暗い場所でフラッシュを使わずに撮ります。
- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

夕　日

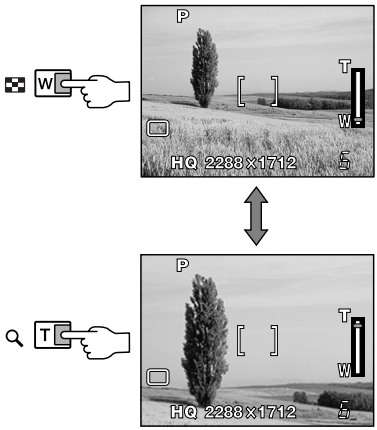
夕景を撮るのに最適です。赤や黄色を鮮やかに再現します。
- フラッシュは使えません。
- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

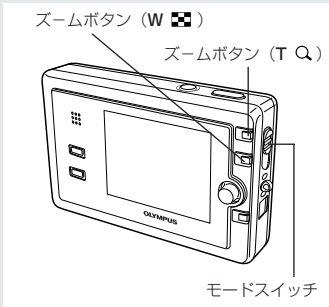
遠くのものを拡大して撮る

光学とデジタルの2種類のズームを使用して望遠撮影ができます。光学ズームはレンズの倍率を変えることで拡大しますが、デジタルズームではCCDに写っている像を部分的に切り出して拡大（補間処理）するため画像は粗くなります。
このカメラでは、光学ズーム倍率2.8倍（35mmフィルムカメラ換算：40mm〜112mm）、光学＋デジタルズームで最大約30倍（画質モードSQ2のとき）の望遠撮影が可能です。
静止画撮影で画質モードがSHQ、HQ、SQ1のとき、最大約15倍、また、ムービー撮影では最大約11倍の撮影が可能です。

光学ズーム

1 **モードでズームボタンを押します。**





2 **撮影します。**

デジタルズーム

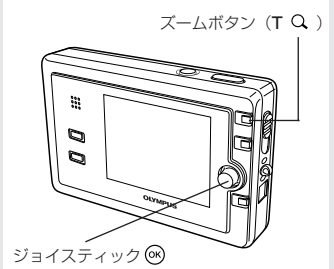
1 **モードの場合：**

トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［デジタルズーム］→［オン］を選択します。

モードの場合：

トップメニューから［デジタルズーム］→［オン］を選択します。

☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **ズームボタン（TQ ）を押します。**

デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップするとデジタルズームになります。

注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 望遠になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、カメラを固定してください。
- 画質モードがSQ2のときは、液晶モニタを通してみた画像は実際に記録される画像より粗く見えます。
- 撮影モードが［セルフポートレート］（☞P.37）に設定されていたり、［マクロ］が［ ］（☞P.41）に設定されていると、ズームは使えません。

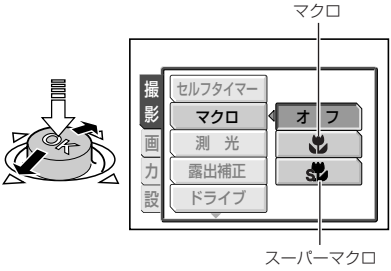
小さなものを拡大して撮る〔マクロ〕

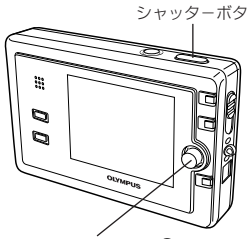
通常の撮影では近接した被写体にピントを合わせるのに時間がかかりますが、マクロモードにすると近接撮影のピント合わせが早くなります。

（マクロ）
約30cm～50cmまで被写体に近づけます。

（スーパーマクロ）
約3cmまで被写体に近づけます。

1 **または モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［マクロ］→［ ］または［ ］を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)





2 **撮影します。**

注意

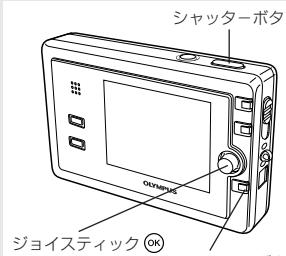
- （マクロ）でフラッシュを使うと、影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- （スーパーマクロ）では、ズームやフラッシュは使えません。

セルフタイマー

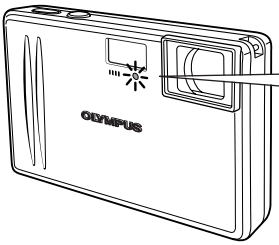
セルフタイマーを使って撮影します。カメラをしっかり固定して撮影してください。

1 **または モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［セルフタイマー］→［オン］を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)

セルフタイマーマークが表示されます。



2 **撮影します。**



セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。

作動中のセルフタイマーを止めるには、**MENU**ボタンを押します。セルフタイマーランプが消灯します。

注意

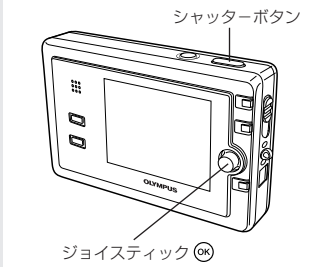
セルフタイマーは、1回の撮影が終わると自動的に解除されます。ただし、パノラマ撮影（☞P.44）や合成ツーショット撮影（☞P.46）では、撮影を完了するまでセルフタイマーは解除されません。

連写［ドライブ］

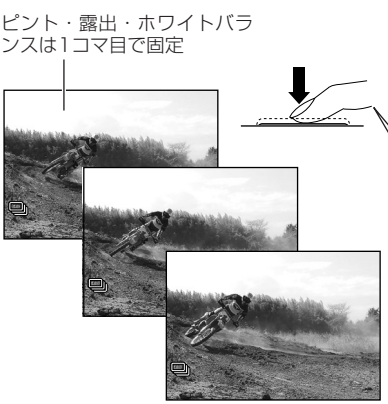
静止画を連続して撮影します。画質がＨＱの場合、約9コマの連続撮影ができます。

1 **モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［連写］を選択します。**

☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **撮影します。**



注意

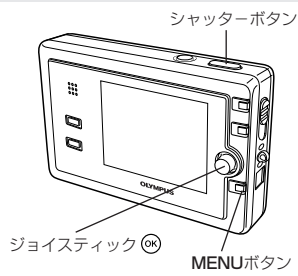
設定された撮影シーンによっては、連写はできません。☞「撮影モード別使用可能な機能」(P.170)

パノラマ

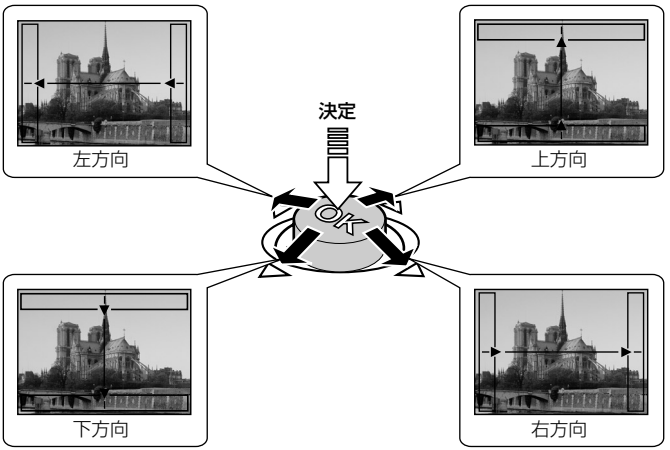
当社製のxDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択します。**

☞「メニューの使い方」(P.17)



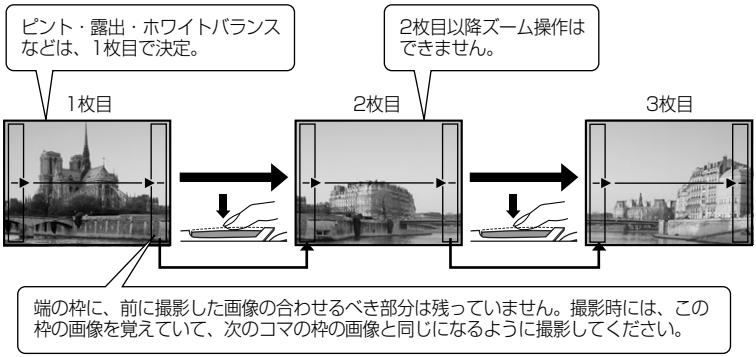
2 **ジョイスティック上下左右いずれかを押して、画像をつなぐ方向を選択します。**



3 被写体の端が重なるように撮影します。

最大10枚まで撮影できます。

例）右方向を選択した場合



4 MENUボタンを押して撮影を終了します。

注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影中、次の機能は使えません。
  ー フラッシュ撮影、連写、合成ツーショット、セルフポートレート、録音

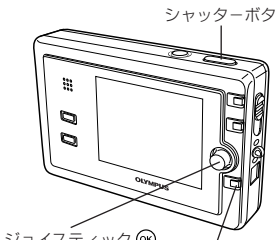
合成ツーショット

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。

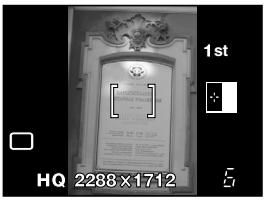
1枚目の撮影画像　　2枚目の撮影画像

1 **[カメラ] モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択します。**

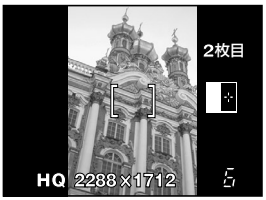
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **1枚目を撮影します。**



3 **2枚目を撮影します。**



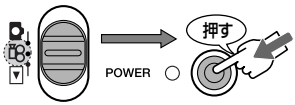
- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。
- やり直したいときは、MENUボタンを押します。

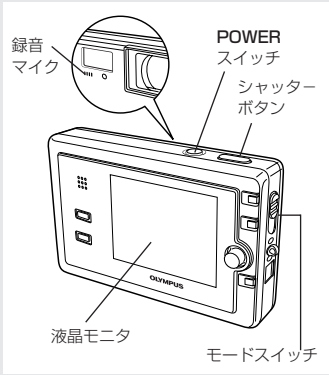
- 合成された1枚の画像としてカードに記録されます。
- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。
- 2枚目を撮影すると、合成ツーショットは自動的に解除されます。

ムービーを撮る

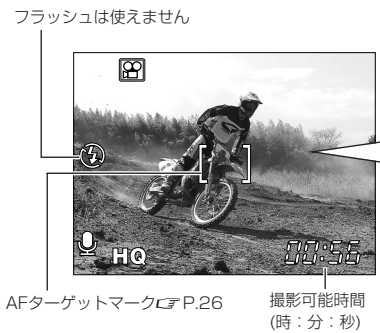
撮影と同時に音声も記録されます。画質モードがSHQの場合は、撮影可能時間は最大約8秒です。

1 **モードでカメラの電源を入れます。** ☞P.10





2 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**



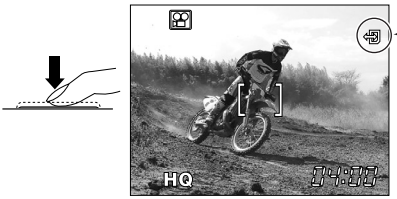
- ズームボタンで被写体を拡大できます。☞「遠くのものを拡大して撮る」(P.39)
- 撮影可能時間は、カード空き容量、画質により変わります。☞「画質モードを選択する」(P.29)

3 **撮影を始めます。**

シャッターボタンを押し込みます。

- 音声を同時に記録している場合、撮影中はピントと光学ズームが固定されます。
- 音声なしでムービー撮影したいときは、［ムービー録音］を［オフ］にしてください。☞「撮影に合わせて音声を記録する」(P.49)

4 **撮影を終了します。**
もう一度シャッターボタンを押します。



カード記録中は が点滅します。

注意

撮影可能時間が00：00になると、自動的に撮影を終了します。

撮影に合わせて音声を記録する

撮影時に音声を記録します。

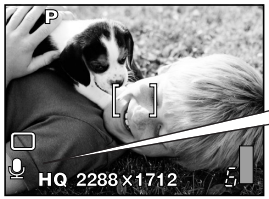
1 **モードの場合：**

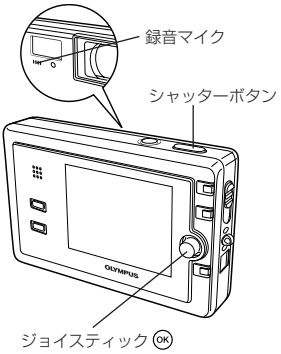
トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スチル録音］→［オン］を選択します。

モードの場合：

トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ムービー録音］→［オン］を選択します。

☞「メニューの使い方」(P.17)





が表示されます。

スチル録音について：
- シャッターが閉じた直後から、約4秒間の録音をします。
- 録音が始まったら、カメラの録音マイクを録音する対象に向けます。録音中はバーが表示されます。
- 音声をあとから録音することができます。また、録音済みの音声を録音し直すこともできます。☞「撮った画像に音声をつける［録音］」(P.69)

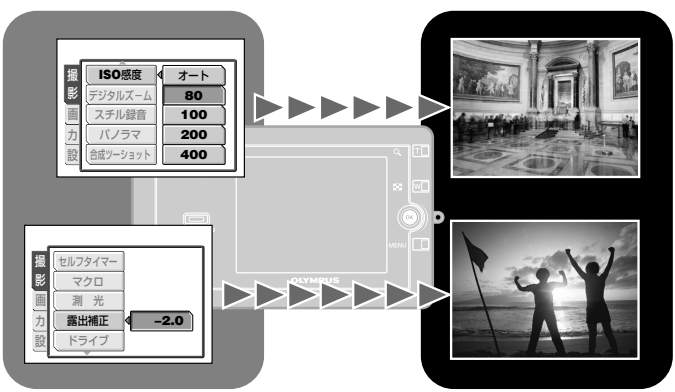
2 **撮影します。**

注意

- 次のようなとき、音声がきれいに録音されないことがあります。
  - 撮影中、録音マイクを指でふさぐ。
  - 録音対象がカメラから1m以上はなれている。
- スチル録音中は撮影ができません。
- 連写・合成ツーショット・パノラマ撮影では、録音はできません。
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

4 さらにきれいに撮るために

シャッターボタンを押すだけの撮影から 一歩進んでみましょう。
個性的な写真を目指して、画像・明るさ・露出に関する調整に挑戦してみましょう。これらの設定をどう組み合わせていくかで、画像の仕上がりに差が出ます。
たとえば、美術館、劇場などのフラッシュ禁止の場所や、フラッシュを使うと光が反射する被写体の場合、やむを得ずフラッシュなしで撮影して、ブレのある画像になってしまった ― こんなことはよくあります。ISO感度を高感度に設定することで、ブレのない画像が撮れるのです。よりきれいに撮りたいときは小さな数値に、明るさの足りないところは大きな数値に、といった使い分けができるのです。
写真の雰囲気を変えたいときは、露出補正をします。水平線に落ちてゆく夕日は、マイナス補正をしてください。暗くなる海に、夕日のキラキラが映えます。



フラッシュ

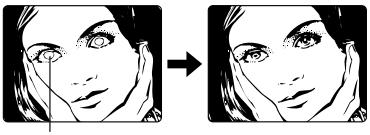
撮影状況や目的にあわせて、4種類のフラッシュモードから選んで設定できます。

オート発光 **（表示なし）**

暗いときや逆光のときに、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減 **（👁）**

暗い場所でフラッシュを使って人物を撮影するとき、目が赤く写る現象を軽減したいときに選択します。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。



目が赤く写ります

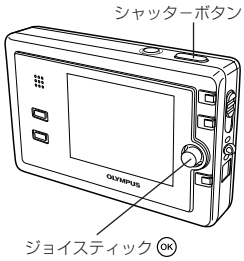
強制発光 **（ϟ）**

フラッシュを明るいところでも発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

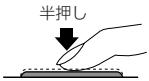
発光禁止 **（⊘）**

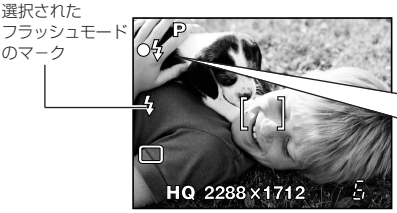
暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

1 **📷モードで、トップメニューから［フラッシュ］を選択し、フラッシュモードを選びます。**☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **シャッターボタンを半押しします。**

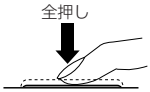




フラッシュが発光するときは、ϟ（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

フラッシュ到達距離
広角時：約0.3 ～3.5m
望遠時：約0.3 ～2.0m

3 **シャッターボタンを全押しして撮影します。**



❗ 注意

- 選択している撮影シーンによっては、フラッシュが使えない場合があります。☞P.34
- 連写（☞ P.43）、スーパーマクロ撮影（☞ P.41）、ムービー撮影（☞ P.47）の場合フラッシュは使えません。
- フラッシュが発光禁止のときに手ぶれのおそれがあるときは、ϟ（手ぶれ警告）マークが点滅します。フラッシュを使用してください。

赤目軽減（👁）

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- 個人差のほか、距離が遠いとき、予備発光を見ていないときなどは、効果が出ない場合があります。

強制発光（ϟ）

- 非常に明るいところでは、効果が出ない場合があります。

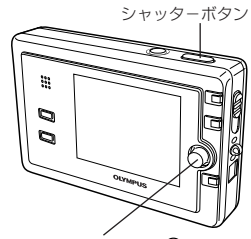
発光禁止（⊘）

- 暗いところの撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定することをおすすめします。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて電気的なノイズが増えて画像が粗くなります。

1 **[カメラ] モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ISO感度］を選択します。**☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **最適なISO感度を選択します。**

被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。

感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、速いシャッター速度で撮影できます。

3 **撮影します。**

注意

- ISO感度は銀塩写真のフィルムを基準に設定されていますが、数値は目安です。
- ISO感度がオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

明るさを測る範囲を変える［測光］

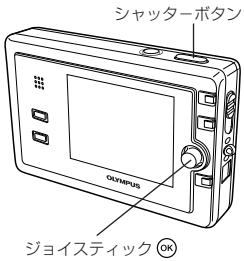
逆光で撮影すると、通常の測光（ESP）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、画面中央部の明るさに合わせて撮影できます。

ESP
画面の中央と周辺を個別に測光して画面全体でバランスのとれた撮影を行います。強い逆光では、中央が暗く撮影されることがあります。

スポット ⊡
画面中央のみを測光するので、逆光での中央の被写体を撮るのに適しています。

1 **📷 または 🎬 モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［測光］→[ESP] または［スポット］を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 **撮影します。**

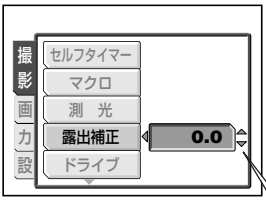


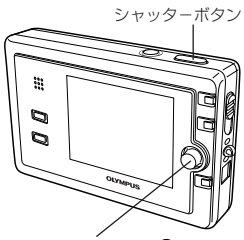
画像の明るさを変える［露出補正］

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。
黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。1/2EV刻みで±2.0EVの範囲で設定できます。

-2.0　　0.0　　+2.0

1 **📷 または 🎥 モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［露出補正］を選択し、補正値を設定します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)





＋の方向で明るく、－の方向で暗くなります。

2 **撮影します。**

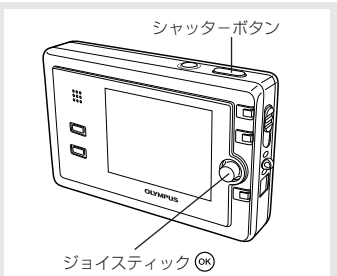
注意

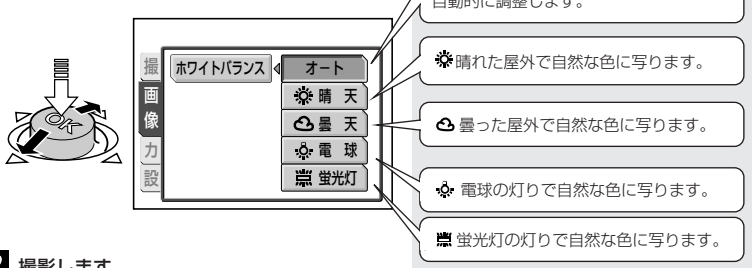
- フラッシュを使用すると、意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 被写体の周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、補正しきれないときがあります。

画像の色合いを調整する［ホワイトバランス］

被写体の色は光源によって変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違ってみえます。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に再現することができます。

1 **または モードで、トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［ホワイトバランス］を選択し、ホワイトバランスの種類を設定します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)





2 **撮影します。**

注意

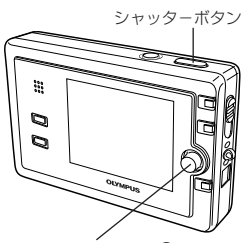
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。☞「再生する」(P.59)
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。
- 撮影シーンを選んで撮影する場合（☞P.34）、ホワイトバランスは自動的に設定されます。

手ぶれ補正

ムービー撮影時の手ぶれによる画像の揺れを軽減します。
被写体の動きに応じてCCD上で画像を取り込む範囲を動かし、被写体のブレを軽減して記録します。オンにすると少し拡大されて撮影されます。

1 **モードで、トップメニューから［手ぶれ補正］→［オン］を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)

が表示されます。



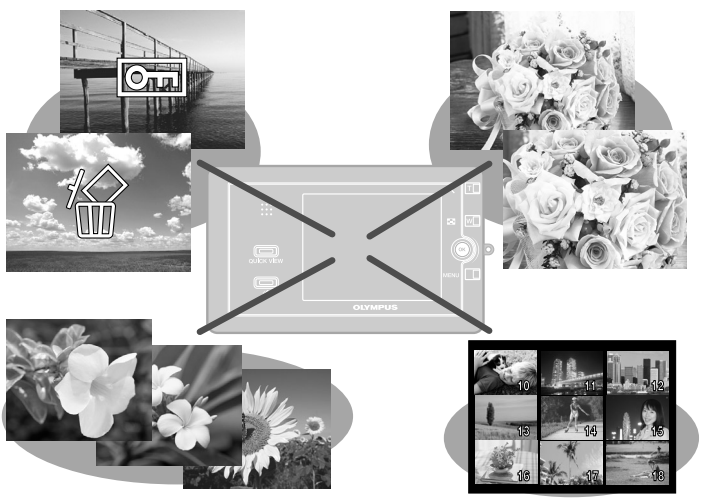
2 **撮影します。**

注意

- 手ぶれが大きいときや、被写体の動きによっては、補正できないことがあります。
- カメラを固定して撮影するときは、手ぶれ補正をオフにしてください。被写体の動きに合わせて、画面が動いてしまうことがあります。

5 再生する

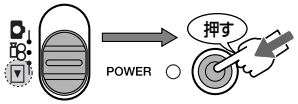
デジタルカメラのメリットは、なんといっても撮影した画像をその場ですぐに確認できること。「手ぶれしている」「ピントが合っていない」など、ふつうは現像してみなければ気づかない失敗も、デジタルカメラなら即座に撮り直しができます。失敗作はすぐ消去してしまえば、無駄なくたくさんの撮影が可能に。逆に、大切な画像を間違って消さないよう、プロテクトをかけることもできます。
撮った画像は、好みに合わせてモノクロやセピアにしたり、部分的にトリミングしたり、目的に合わせ画像サイズを変更したり。
これらのメリットを活かし、思う存分デジタルカメラを楽しみましょう。

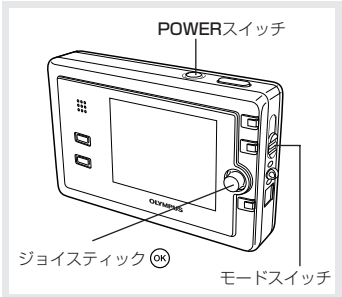


静止画再生

1コマ再生

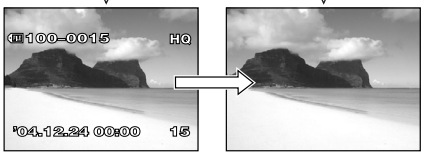
1 ▶ モードでカメラの電源を入れます。





最後に撮影した画像が表示されます。

画面上の撮影情報は3秒で消えます。



2 ジョイスティックを使って、見たい画像を選択します。

上に押して10コマ前の画像を表示。

左に押して1コマ前の画像を表示。

右に押して次の画像を表示。

下に押して10コマ先の画像を表示。

注意

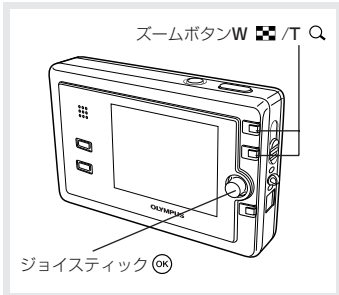
3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯しカメラの電源が切れます。ACアダプタを使っているときは、自動的に電源は切れません。

クローズアップ再生

画像を5倍まで段階的に拡大表示（クローズアップ）します。

1 見たい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

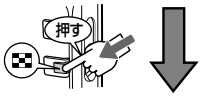
2 ズームボタン Q を押して、画像を拡大します。



押すたびに段階的に拡大表示されます。
• マークのついた画像はクローズアップできません。

拡大再生中にジョイスティックを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。

ズームボタン Q を押すたびに、1倍刻みでクローズアップします。



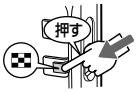
1倍に戻ります。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像から目的の画像をすばやく見つけることができます。

1 画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

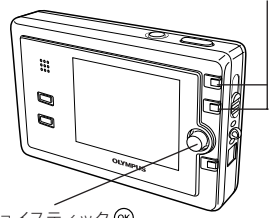
ズームボタン を押します。



•9分割のインデックス再生になります。
•表示するコマは4、16、25分割も選択できます。☞「インデックス画面の分割数を変える［インデックス表示］」(P.100)

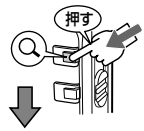
2 ジョイスティックを使って、画像を選択します。

ズームボタンW /T



ジョイスティック ⓞⓚ

ズームボタン を押すと、1コマ再生に戻ります。



カレンダー再生

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。

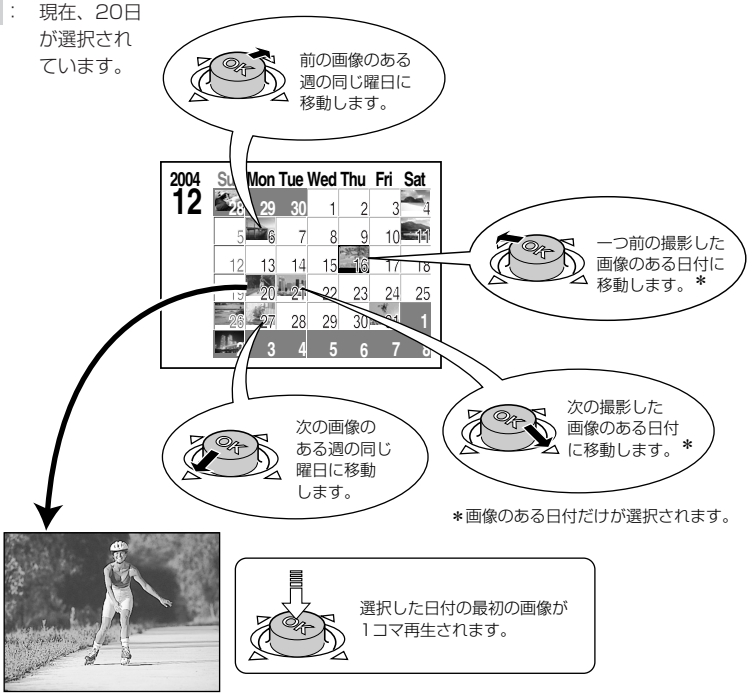
1 ズームボタン を2回押します。

インデックス再生中は、ズームボタン を1回押します。

ひとつの日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。

2 ジョイスティックを使って、日付を選択します。

例： 現在、20日が選択されています。

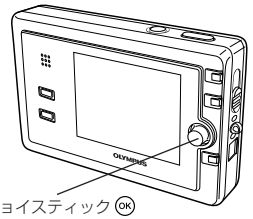


画像を連続自動再生する［スライドショー］

カードに記録されている画像を1コマずつ連続して再生します。ムービーは、最初のフレームのみが再生されます。

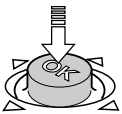
1 トップメニューから［スライドショー］を選択します。

☞「メニューの使い方」(P.17)



スライドショーがスタートします。

2 スライドショーを終了します。



ジョイスティックが押されるまで、スライドショーは繰り返されます。

☞「スライドショーの種類を選ぶ［スライドショー設定］」(P.101)

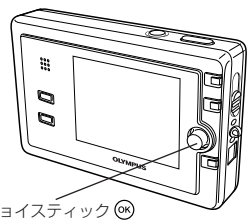
注意

長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタのご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過するとスリープモード（待機状態）になり、自動的にスライドショーが終了します。

画像を回転する［回転表示］

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。横向きの画像を回転して縦向きに表示します。反時計方向に90度、時計方向に90度の回転ができます。

例：
カメラを縦に構えて撮影した画像



ジョイスティック ⓞⓚ

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［回転表示］→［+90˚］、［0˚］、［−90˚］からいずれかを選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)

［+90˚］

時計方向に画像を90˚回転させて表示

［−90˚］

反時計方向に画像を90˚回転させて表示

［0˚］

はじめの画像に戻します。

注意

- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- プロテクトのかかった画像は回転表示できません。☞P.78

静止画編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

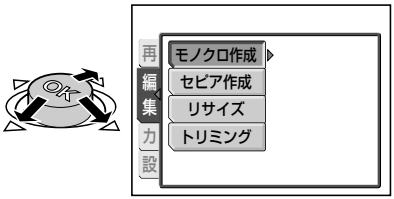
モノクロ作成　白黒に変換します。
セピア作成　セピア色に変換します。
リサイズ　画像サイズを640×480、または320×240に変換します。
トリミング　画像の一部を拡大します。

モノクロ作成／セピア作成

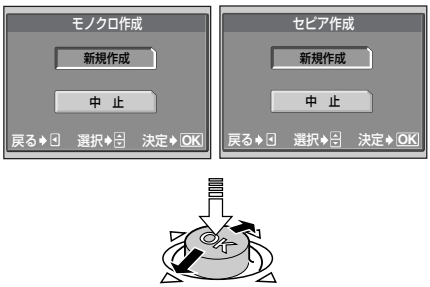
1 モノクロまたはセピア色にしたい画像を再生します。☞「1コマ再生」(P.70)

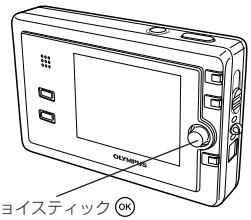
2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

3 ［モノクロ作成］または［セピア作成］を選択します。



4 ［新規作成］を選択します。





モノクロまたはセピア色になった画像が表示されます。

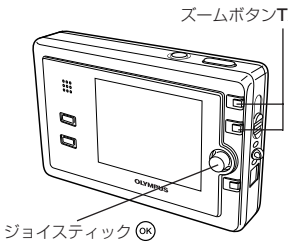
画像を作成している間、バーが表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

リサイズ

1 リサイズを行いたい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［リサイズ］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

3 画像サイズを選択します。



画像を作成している間、バーが表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

トリミング

1 トリミングを行いたい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

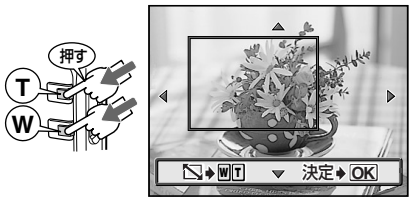
2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［トリミング］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

3 ［新規作成］を選択します。

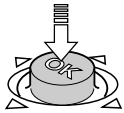
4 トリミングを行います。

トリミングの位置を決めます。

トリミングのサイズを決めます。



トリミング枠が最大、または最小になると枠の縦横が変わります。



プレビューが表示されます。

5 [決定] を選択します。

画像を作成している間、バーが表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

- トリミングをやり直す場合は［再設定］を選択します。手順 **4** からやり直します。
- トリミングをやめるときは［中止］を選択します。

注意

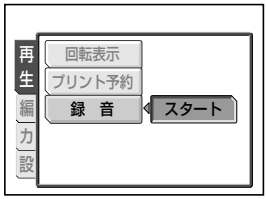
- 次の場合は画像編集はできません。
  ムービー／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足しているとき
- トリミングした画像を印刷した場合、粗くなることがあります。

撮った画像に音声をつける［録音］

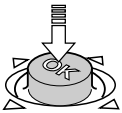
撮影した静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1コマにつき約4秒間です。

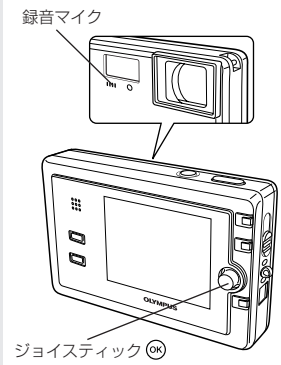
1 音声をつけたい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［録音］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



3 カメラの録音マイクを録音したい対象に向けて、録音を開始します。



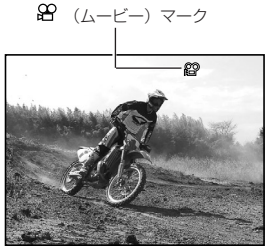


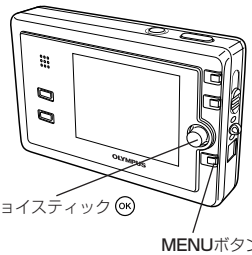
注意

- 録音対象がカメラから約1m以上はなれると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れずに（無音状態）再録音してください。

ムービー再生

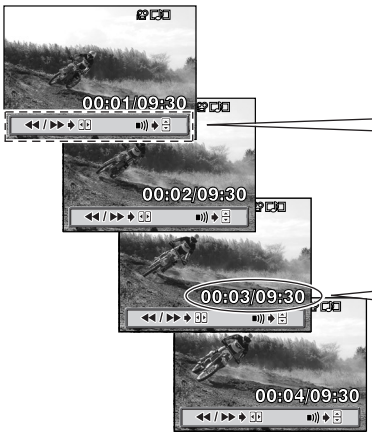
1 🎞 マークの付いた画像を表示させます。
☞「1コマ再生」(P.60)





ムービーの先頭コマが表示されます。

2 トップメニューから［ムービー再生］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



再生が始まります。

- ムービー再生中に2倍速再生や再生音量の調節などができます。
- 再生中、画面下に操作ガイドが表示されます。

☞「ムービープレイ中に可能な操作」(P.71)

再生時間／記録時間

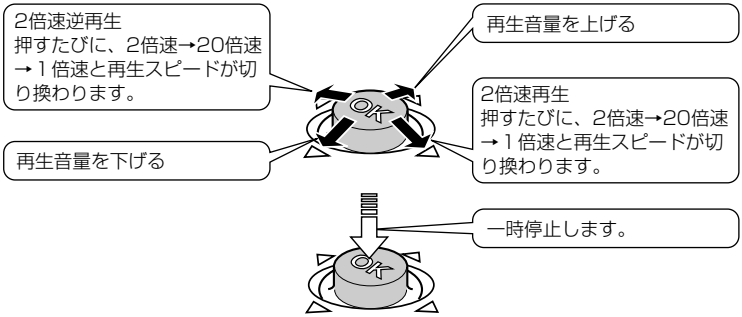
3 再生が終わるとメニューが表示されます。

もう一度ムービーの先頭コマから再生します。

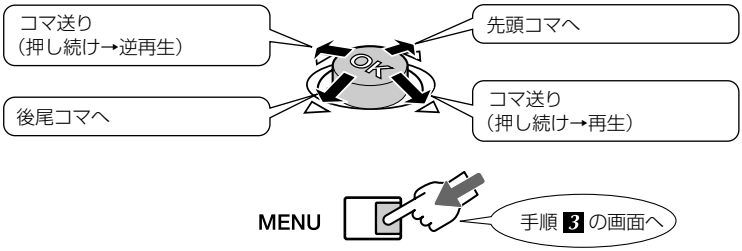
再生モードに戻ります。

ムービープレイ中に可能な操作

再生中



一時停止中



注意

2倍速再生や20倍速再生中は、音声が出力されません。

ムービーの編集

撮影したムービーからインデックスを作成したり、編集することができます。

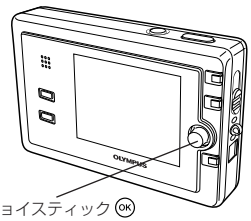
切り出し

ムービーの1コマを切り出して静止画として保存します。［切り出し］は画質モードがSHQまたはHQで撮影したムービーの場合に選択できます。

1 静止画として保存するムービーコマを表示します。☞「ムービー再生」(P.70)

2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［切り出し］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

3 ［決定］を選択します。



切り出されたコマが静止画として新たに作成され、再生モードに戻ります。

注意

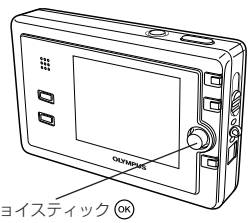
- 切り出しで作成される画像は、640 × 480 ピクセルです。同じサイズの静止画より、画像が粗くなる場合があります。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。
- カードアクセスマークが点滅しているときは、絶対にカードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、カードが破壊され使用できなくなる場合があります。

ムービーのインデックスを作る［インデックス作成］

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9コマダイジェスト版にして画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

1 インデックスを作成したいムービーを表示します。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［インデックス作成］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



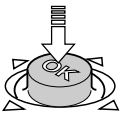
3 インデックスの先頭コマを選択します。

コマが戻ります。押し続けるとムービーを逆再生します。

ムービーの先頭のコマへジャンプします。

ムービーの後尾のコマへジャンプします。

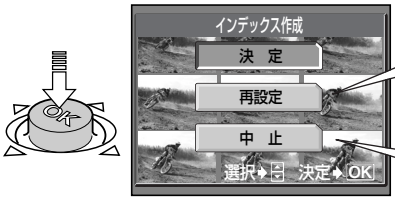
コマが進みます。押し続けるとムービーを再生します。



選択を決定

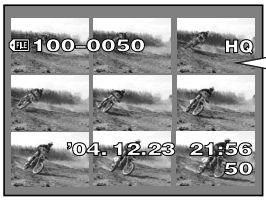
4 手順 **3** 同様、インデックスの後尾コマを選択します。

5 ［決定］を選択します。



コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択します。手順 3 からやり直してください。

インデックス作成をやめるときは［中止］を選択します。



- ムービーから自動的に抜き出された9コマの画像が、インデックス表示されます。作成された画像は、新規の画像として保存されます。
- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
SHQ HQ	SQ1 (2048 x 1536ピクセル)
SQ1 SQ2	SQ2 (1024 x 768ピクセル、高画質)

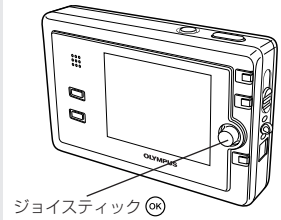
注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

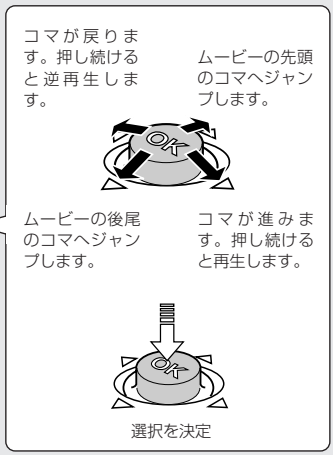
ムービー編集

撮影したムービーから必要な部分を切り出して編集します。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［ムービー編集］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ムービーの残したい部分の先頭コマを選択します。



3 手順 **2** 同様、ムービーの残したい部分の後尾コマを選択します。

4 ［決定］を選択します。

コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択します。手順 2 からやり直してください。

ムービー編集をやめるときは［中止］を選択します。

5 ［新規作成］または［上書き保存］を選択します。

新規作成編集したムービーを新しいムービーとして保存します。

上書き保存編集したムービーを元のムービーの名前で保存します。元のムービーは失われます。

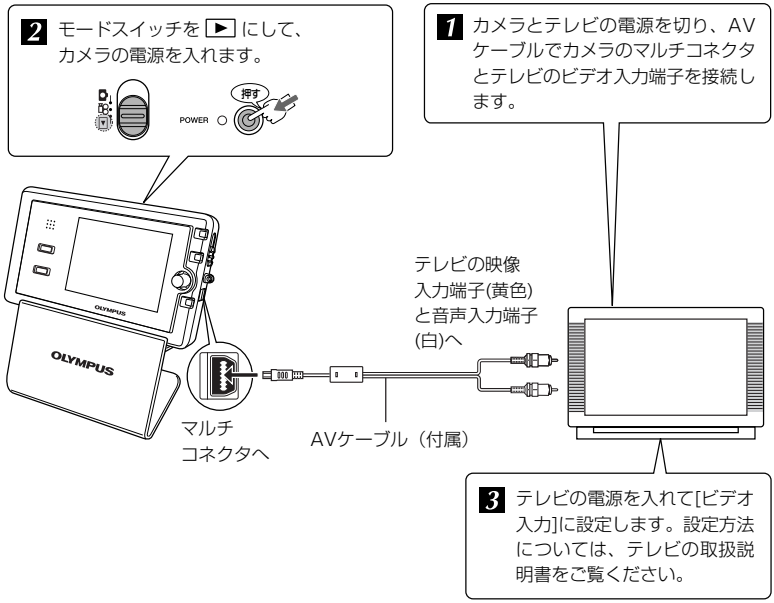
作成中を示すバーが表示され、編集されたムービーが新規作成または上書き保存された後、再生モードに戻ります。

注意

カードの空き容量が不足している場合は、［新規作成］は選択できません。

テレビで画像を再生する

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画とムービーの両方の再生ができます。

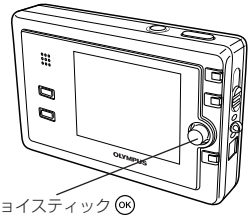


- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力方式を選ぶ［ビデオ出力］」(P.99)
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。
- テレビによっては画像が画面中央からずれることがあります。

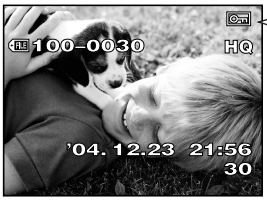
画像にプロテクトをかける（誤消去防止）

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 プロテクトをかけたい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)



2 トップメニューから［プロテクト］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



プロテクトマークが表示されます。プロテクトを解除すると、消えます。

注意

画像にプロテクトをかけても、フォーマットを行うとすべて消去されます。
☞「カードをフォーマットする［フォーマット］」(P.106)

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去があります。

注意

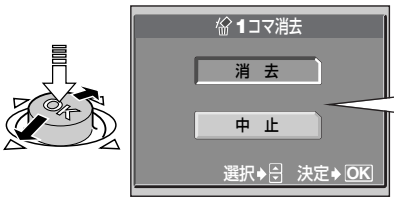
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける（誤消去防止）」(P.78)

1コマ消去

1 消去したい画像を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)

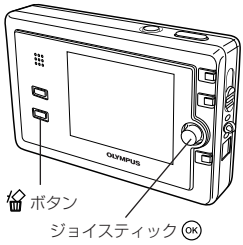
2

3 [消去] を選択します。



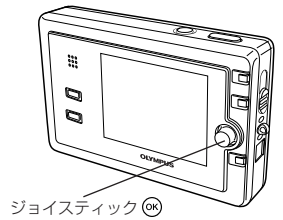
消去を実行する画面が表示されます。
[中止]：消去を中止します。

画像が消去され、メニューが終了します。



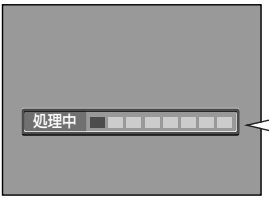
全コマ消去

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［全コマ消去］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ［消去］を選択します。

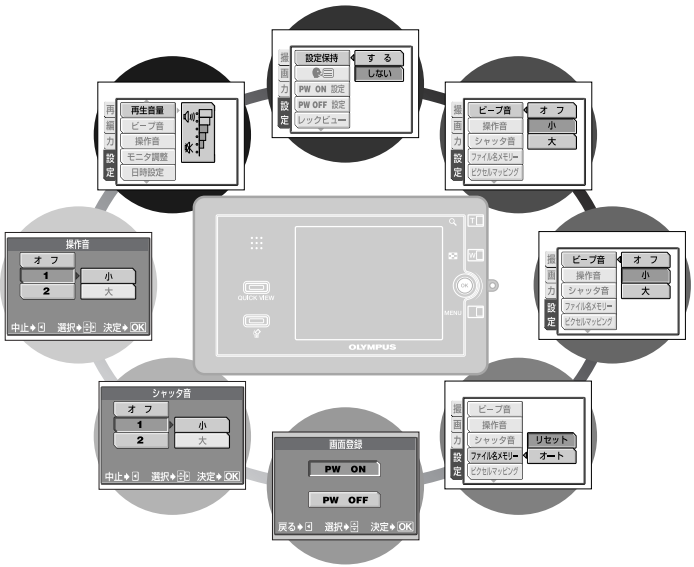
消去を実行する画面が表示されます。
［中止］：消去を中止します。



消去している間、表示されます。
消去が終了すると表示が消えます。

6 設定・機能のカスタマイズ

デジタルカメラの良さのひとつに、自分の使い勝手に合わせてカメラをカスタマイズできる点があげられます。「野鳥を撮りたいので、シャッター音を消して撮影したい」「スライドショーの種類を変えてみたい」「自分の撮った画像を起動画面に使ってみたい」「カメラの電源を切った後も、撮影時に細かく設定した内容をそのままキープしたい」— そんなあなたにぴったりな機能をここでは紹介します。機能を上手に活用してカメラをより使いやすくしてください。

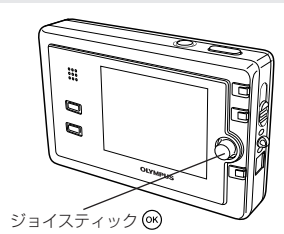


カメラの設定を記憶する［設定保持］

電源を切った後も、変更した設定値を保持することができます。［設定保持］が適用される機能については次ページの表を参照してください。
［設定保持］の［する］［しない］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで［設定保持］を設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［設定保持］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ［する］または［しない］に設定します。

電源を切っても変更した設定値は保持されます。

電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。（初期状態）
例）［画質モード］を［SQ1］に変更しても、［設定保持］が［しない］に設定されていると、電源を入れ直したときに初期設定のHQに戻ります。

［設定保持］：［しない］で設定が元に戻る機能とその設定

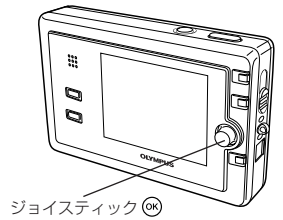
設定項目	初期設定	参照ページ
フラッシュ	オート	P.52
シーン選択	P	P.34
マクロ	オフ	P.41
測光	ESP	P.55
露出補正	0.0	P.56
ドライブ	単写	P.23
ISO感度	オート	P.54
デジタルズーム	オフ	P.40
スチル録音	オフ	P.49
ホワイトバランス	オート	P.57
画質モード	HQ	P.29
SHQ設定	2288×1712	P.29
HQ設定	2288×1712	P.29
SQ1設定	1280×960 標準	P.29
SQ2設定	640×480 標準	P.29
手ぶれ補正	オフ	P.58
ムービー録音	オン	P.49
情報表示	オフ	P.105

表示する言語を切り替える

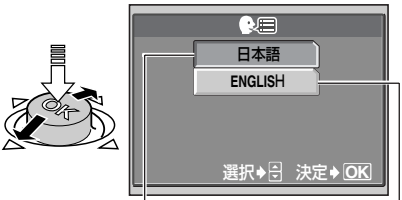
液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語ではなく、他の言語にすることができます。

設定できるモード

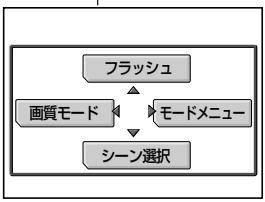
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→ を選択します。
☞「メニューの使い方」（P.17）



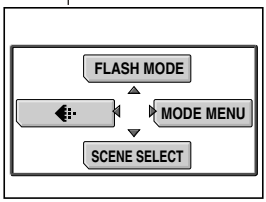
2 言語を選択します。



表示する言語を増やすことができます。当社ホームページで追加する言語のファームウェアを配信しています。詳しくは、当社ホームページ（http://www.olympus.co.jp/）をご覧ください。



日本語表示



英語表示

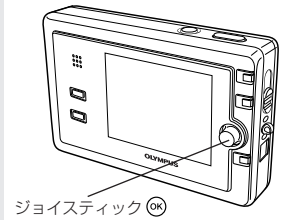
起動画面を変える［PW ON 設定］/［PW OFF 設定］

電源を入れたときや切ったときに表示される画面と音を設定します。自分で画像を登録して設定することもできます。☞「起動画面を登録する［画面登録］」（P.87）

PW ON 設定 ：電源を入れたときの画面と音を設定
PW OFF 設定：電源を切ったときの画面と音を設定

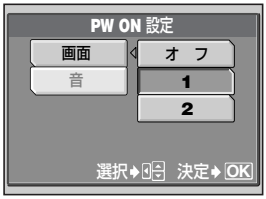
設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［PW ON 設定］（［PW OFF 設定］）を選択します。
☞「メニューの使い方」（P.17）



2 ［画面］または［音］を選択します。

3 ［画面］の設定をします。

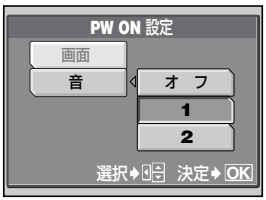


手順 **2** のメニューで［音］を選択します。

- メニュー例：［PW ON 設定］を選択したとき
- 選択枠を動かすと、選択されている起動画面が再生されます。

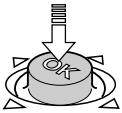
［オフ］：表示なし
［1］：表示あり
［2］：自分で登録した画像が選択できます。何も登録されていないと、電源を入れたとき／切ったときに何も表示されません。

4 ［音］の設定をします。



音量は再生音量で設定した音量です。
☞「再生音量を設定する［再生音量］」(P.90)

5 設定を確定します。



起動画面を登録する［画面登録］

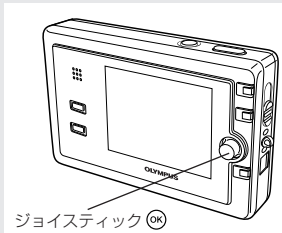
電源を入れたときや切ったときに表示される画面を登録します。カードに保存されている画像から登録することができます。登録した画面を表示するときはPW ON ／PW OFF 設定を行います。

☞「起動画面を変える［PW ON 設定］/［PW OFF 設定］」(P.85)

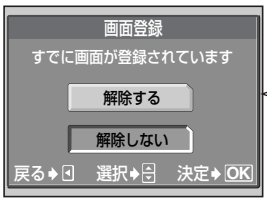
PW ON 設定 ：電源を入れたときの画面を登録
PW OFF 設定：電源を切ったときの画面を登録

設定できるモード

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［画面登録］を選択します。**
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 **［PW ON］または［PW OFF］を選択します。**

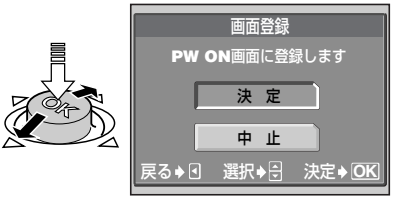


すでに画面が登録されているときは、この画面が表示されます。画面を登録する場合は［解除する］を選択します。［解除しない］を選ぶと［PW ON］［PW OFF］を選択する画面に戻ります。

3 ジョイスティックで登録する画像を選択します。

☞「1コマ再生」(P.60)

4 ［決定］を選択します。



メニュー例：［PW ON］を選択したとき

画面登録され、**2**のメニューに戻ります。
続けて画面登録することができます。

注意

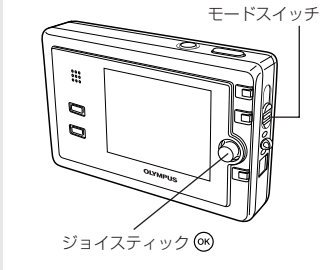
このカメラで正しく再生できない画像およびムービーコマは、画面登録できません。

撮影後すぐに画像を確認する［レックビュー］

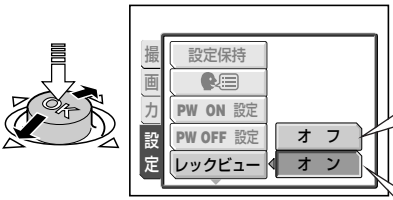
撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ［オン］または［オフ］に設定します。



記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

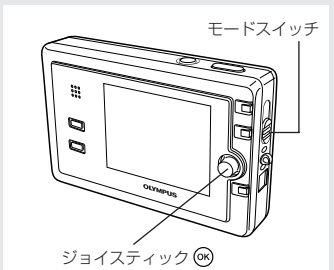
撮影した画像を約3秒間表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

再生音量を設定する［再生音量］

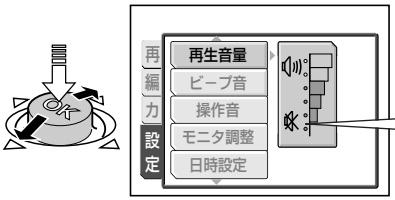
静止画の音声メモやムービー再生時の音量、電源を入れたり切ったりするときの音量を設定します。5段階の音量が設定できます。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［再生音量］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 再生音量を選択します。

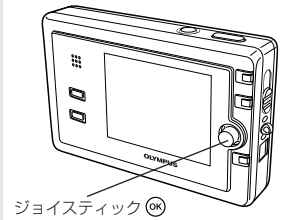


警告音を設定する［ビープ音］

カメラが出す警告音の音量を変えたり、消すことができます。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 警告音の音量を選択します。

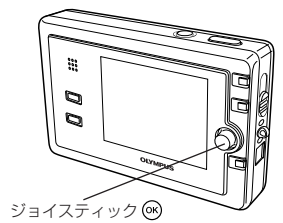
選択枠を動かすと、選んだ警告音量が再生されます。

操作音を設定する［操作音］

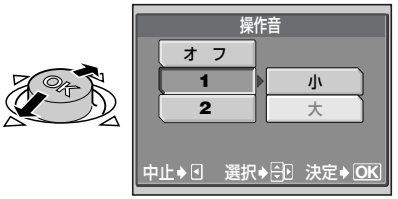
カメラのボタン操作で出る音を消すことができます。また、音量を「小」「大」から選択できます。

設定できるモード

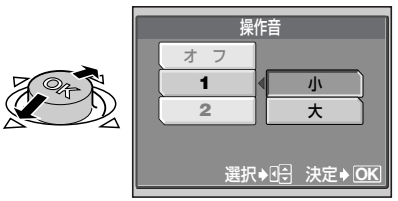
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［操作音］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 操作音を選択します。



音量を選択します。



選択枠を動かすと、選択されている操作音が再生されます。

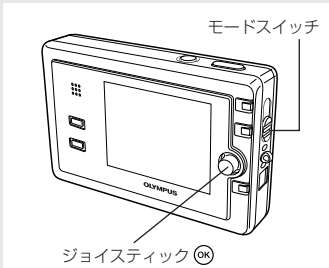
3 設定を確定します。

シャッター音を設定する［シャッタ音］

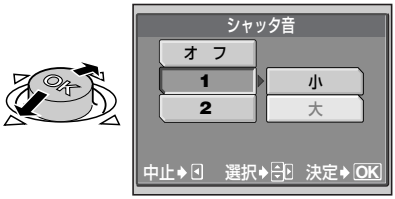
撮影時のシャッター音を変えたり、消すことができます。また、音量を「小」「大」から選択できます。

設定できるモード

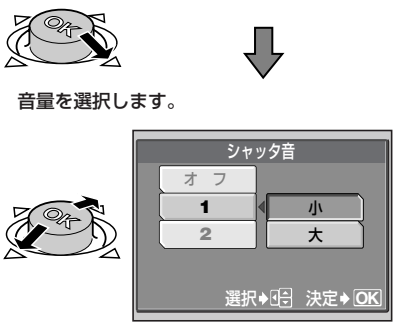
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［シャッタ音］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 シャッター音を選択します。



音量を選択します。

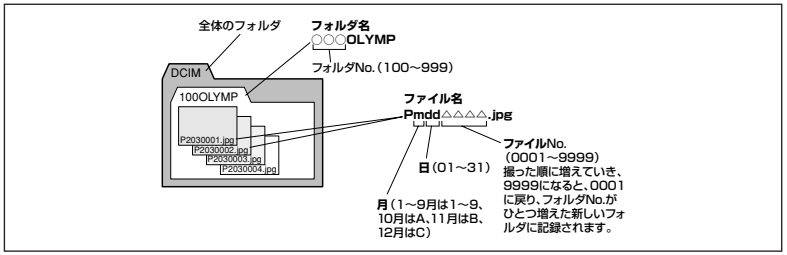


選択枠を動かすと、選択されているシャッター音が再生されます。

3 設定を確定します。

ファイル名をリセットする［ファイル名メモリー］

撮影した画像はカードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。



オート

カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo.に続いた番号が付けられます。

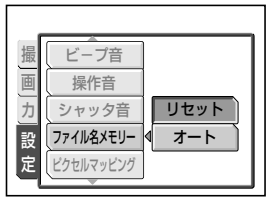
リセット

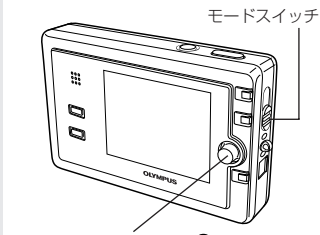
新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo.に続けて番号が付けられます。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ファイル名メモリー］を選択します。☞「メニューの使い方」（P.17）

2 ［リセット］または［オート］に設定します。





注意

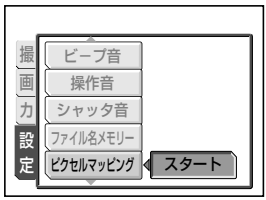
最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

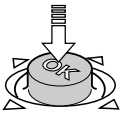
画像処理機能をチェックする［ピクセルマッピング］

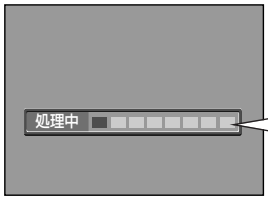
CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに行う必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るために、撮影・再生直後から1 分以上時間を空けて実行してください。

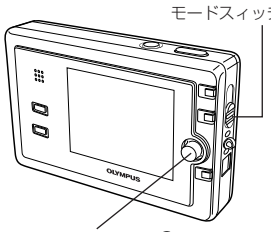
設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ピクセルマッピング］を選択します。☞「メニューの使い方」(P.17)









ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。

注意

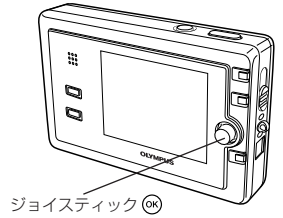
処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

液晶モニタの明るさを調整する［モニタ調整］

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



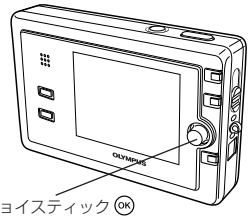
2 明るさを調整します。

日付・時刻を設定する［日時設定］

日時の情報は画像とともに記憶されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。

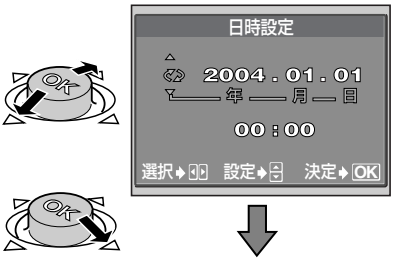
設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［日時設定］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



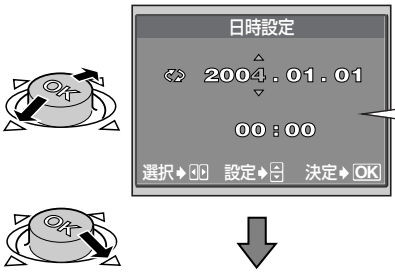
2 日時を設定します。

日付の順序を選びます：［年-月-日］、［月-日-年］、［日-月-年］



以下は［年-月-日］に設定した場合の説明です。

日付を設定します。

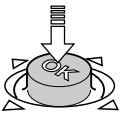


年の入力に移動します。年の上2桁は固定されています。

同様の操作を繰り返して時刻まで入力します。

時刻は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

3 設定を確定します。



時刻を決定すると時計は動き始めます。

注意

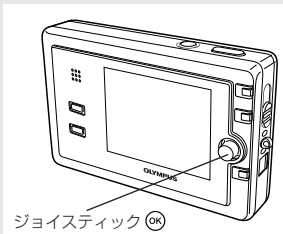
- 日時設定は、電源を切っても保持されます。
- 電池を抜いた状態で約3日放置すると、日時の設定は解除され、初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。電池を入れたときは、日時の設定が正しいことを確認してください。
- 日時設定が解除されると、カメラの電源を入れたときに液晶モニタに警告表示が出ます。☞「エラーコード表示」（P.150）

ビデオ出力方式を選ぶ［ビデオ出力］

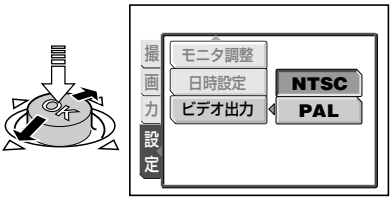
お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。[ビデオ出力] はビデオケーブルを接続する前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ出力］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)



2 ビデオ出力方式を選択します。



主な国と地域のテレビ映像信号
海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

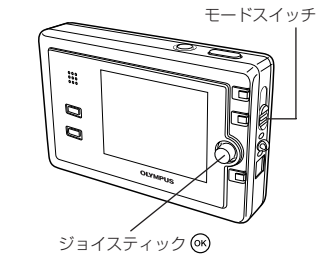
NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

インデックス画面の分割数を変える［インデックス表示］

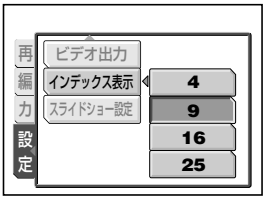
インデックス再生（☞P.62）のコマ数を選択できます。

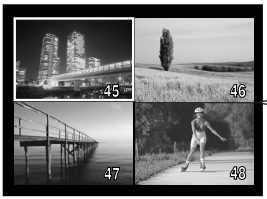
設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［インデックス表示］を選択します。☞「メニューの使い方」（P.17）

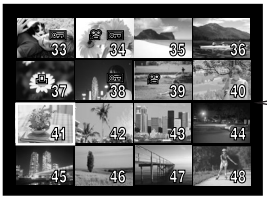


2 分割数を選択します。





4コマインデックス表示画面



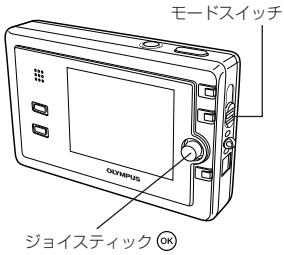
16コマインデックス表示画面

スライドショーの種類を選ぶ［スライドショー設定］

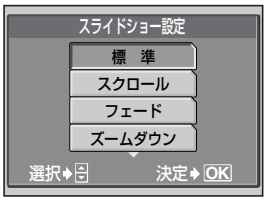
スライドショー（☞P.64）の画像の切り替わりのときの効果（スタイル）を9種類から選ぶことができます。

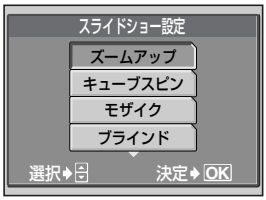
設定できるモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［スライドショー設定］を選択します。☞「メニューの使い方」（P.17）



2 スタイルを選択します。

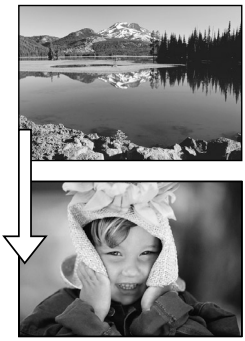




スライドショーの種類が表示されます。

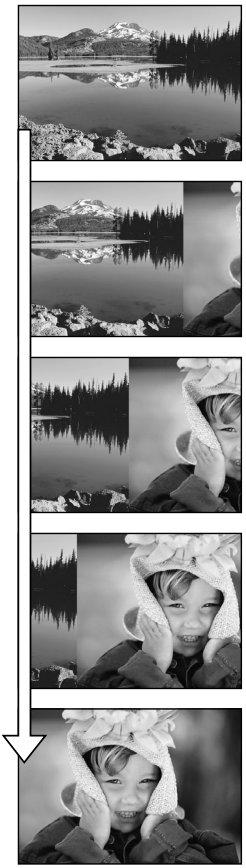
標準

カードに記録されている画像を１コマずつ再生します。



スクロール

次の画像が画面の右から左へ、スクロールして表示されます。

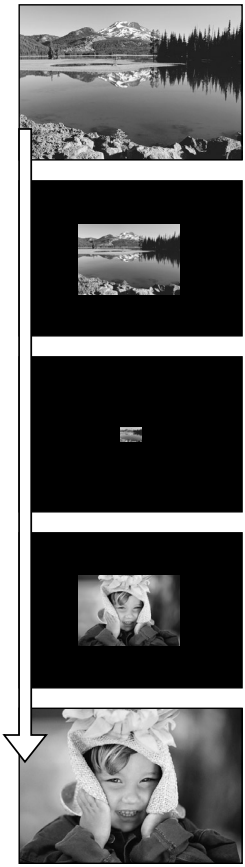


フェード

次の画像が徐々に浮かび上がるように表示されます。

ズームダウン

前の画像が中心に向けて小さくなり、その後次の画像が中心から徐々に広がって表示されます。



ズームアップ

前の画像が中心に向けて大きくなり、その後次の画像が中心から徐々に小さくなって表示されます。

キューブスピン

前の画像が左に向けて横方向に縮小されていき、その後次の画像が画面の右から左へ、横方向に拡大しながら表示されます。

モザイク

前の画像が一度消え、その後次の画像がモザイク状に現われます。

ブラインド

次の画像がブラインド状に表示されます。

ランダム

全スライドショーモードの中からカメラがランダムに選択し、1枚ごとに異なるモードで表示します。

画像の詳細情報を表示する［情報表示］

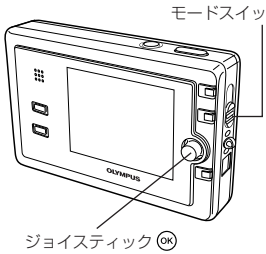
再生時の画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」（☞P.173）を参照してください。

設定できるモード

1 トップメニューから［情報表示］→［オン］または［オフ］を選択します。
☞「メニューの使い方」（P.17）

情報表示オンの時

情報表示オフの時



注意

このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でも日時、ファイル番号、電池残量だけが表示されます。

カードをフォーマットする［フォーマット］

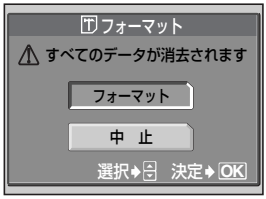
フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしなおしてください。

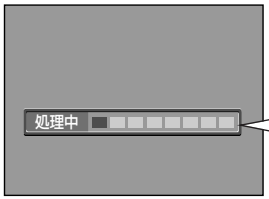
フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

設定できるモード

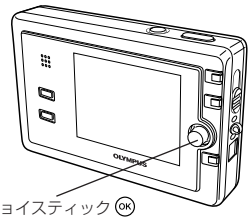
1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［フォーマット］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

2 ［フォーマット］を選択します。





カードをフォーマットしている間、表示されます。



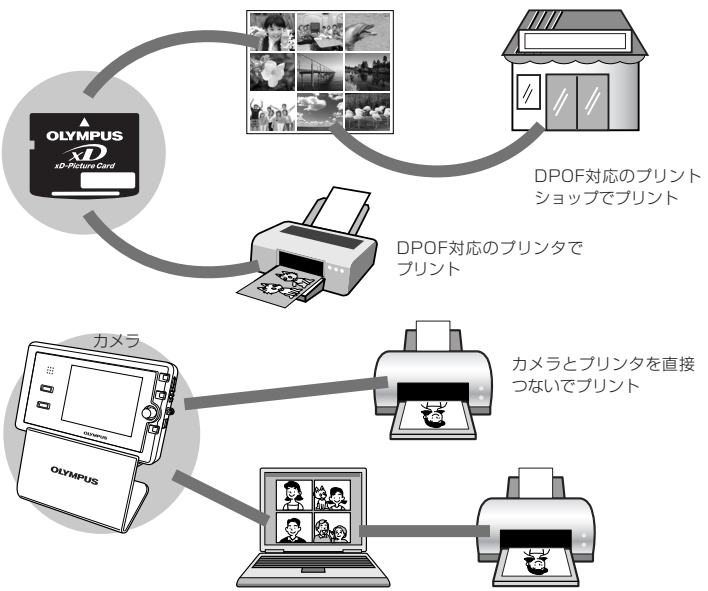
注意

フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。

- 電池／カードカバーを開ける
- 電池を取り外す
- ACアダプタの抜き差しをする。これはカメラに電池が入っている、いないにかかわらず、絶対にしないでください。

7 プリントする

撮った画像をプリントする―それはデジタルライフの次のステージです。これには、お店でプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。お店でプリントするときは、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。
自分でプリントするときは、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、PCに取り込んでPCに接続されたプリンタで印刷する方法があります。



プリント予約（DPOF）

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

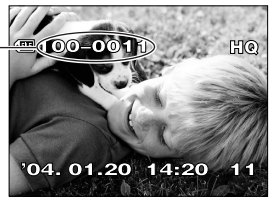
DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

（例）FILE 100−0011
フォルダの通し番号　画像の通し番号



撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをより高画質に設定することをおすすめします。
☞「画質モードを選択する」（P.29）

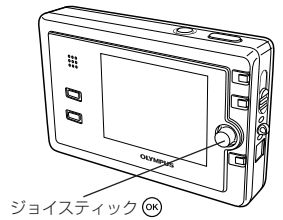
注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと［カード残量がありません］と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

プリント予約モードを選ぶ

プリント予約モードには、［1コマ予約］と［全コマ予約］があります。
［1コマ予約］：　選択した画像のみをプリント予約します。☞P.111
［全コマ予約］：　カード内の全画像をプリント予約します。☞P.117

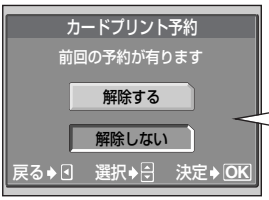
1 静止画を再生します。
☞「1コマ再生」(P.60)



2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択します。
☞「メニューの使い方」(P.17)

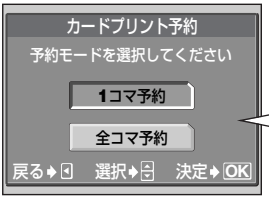
カードにプリント予約した画像がすでにある場合、手順 **2** を実行した後に以下の画面が表示されます。

その予約設定を残すか、解除するかを選択します。



［解除する］：予約設定を解除します。
［解除しない］：予約設定を残します。

3 プリント予約モードを選択します。



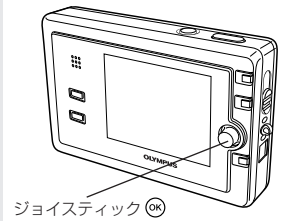
1コマ予約 ☞P.111
全コマ予約 ☞P.117

（ムービー）マークがついた画像はプリント予約できません。

1コマ予約をする

選択した画像のみをプリント予約します。また、すでに予約した枚数や日時のプリントなどの条件を変更します。プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。

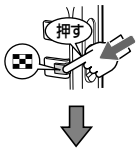
1 ［1コマ予約］を選択します。☞P.110



2 プリント予約したい画像を選択します。

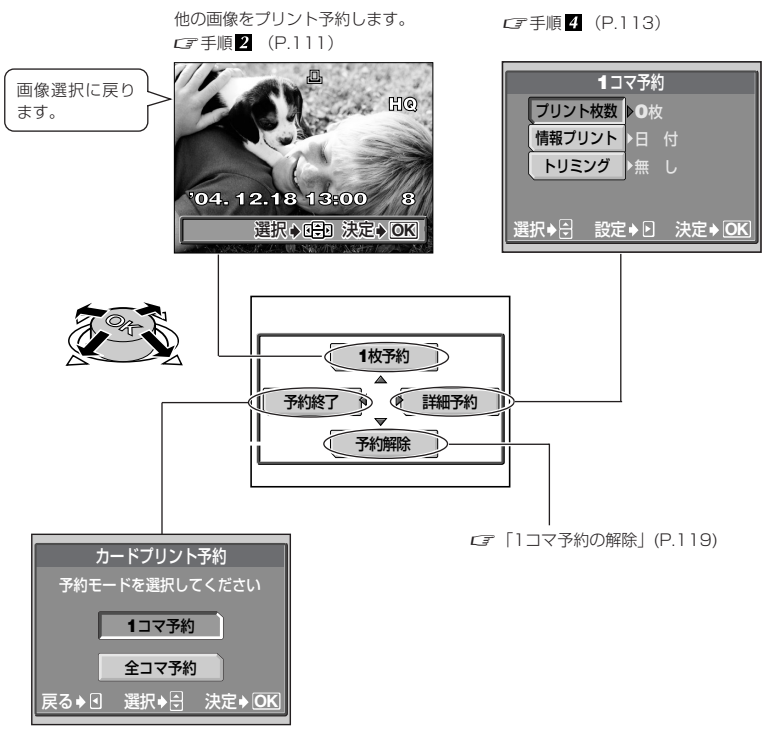
- 画像を表示して選択します。
- すでにプリント予約されている画像には、🖶 が表示されます。

インデックス画面で画像を選択できます。
☞「インデックス再生」(P.62)



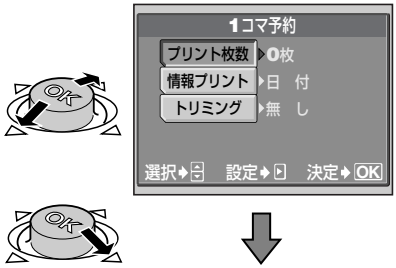
3 プリント予約したい内容に応じて、項目を選択します。

［1枚予約］：プリント枚数を1枚で予約します。［情報プリント］と［トリミング］の設定はありません。
［詳細予約］：［プリント枚数］・［情報プリント］（日付と時刻）・［トリミング］を設定します。
［予約解除］：表示している画像のプリント予約を解除します。
［予約終了］：プリント予約を終了します。



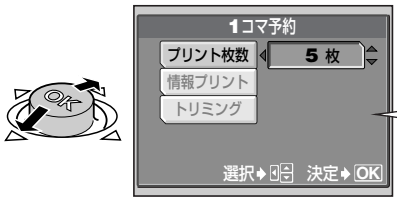
［詳細予約］を選択した場合

4 ［詳細予約］の設定項目を選択します。

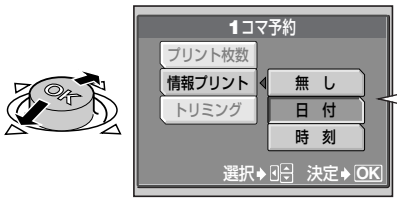


各項目の設定を選択します。

［トリミング］を選択した場合
☞P.115



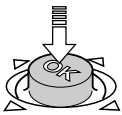
［プリント枚数］を選択した場合



［情報プリント］を選択した場合
［無し］：画像のみプリントされます。
［日付］：すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
［時刻］：すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

5 各設定を確定します。

6 ［詳細予約］の設定を確定します。

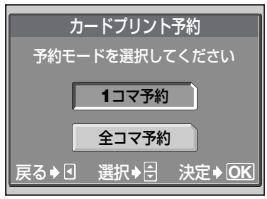


- 手順 2 の画像選択の画面に戻ります。
- 他の画像を続けてプリント予約するときは、手順 2 ～ 6 を行います。
- ［詳細予約］を終了してプリント予約から抜けるには、手順 3 で［予約終了］を選択します。

［予約終了］を選択した場合

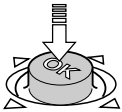
7 プリント予約モードから抜けます。

2回押します。

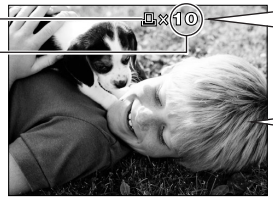


［モードメニュー］に戻ります。

8



メニューから抜けるまで繰り返し押します。



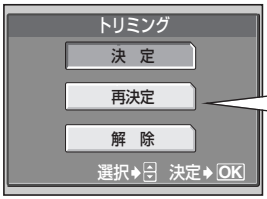
予約枚数が1枚のときは、🖨 のみ表示されます。

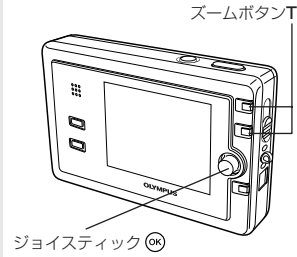
プリント予約された画像

トリミング

撮影した画像の一部を拡大してプリントします。

1 ☞P.113、手順 **4** で［トリミング］を選択しておきます。
すでにトリミングが設定されている場合、以下の画面が表示されます。
［再設定］を選択します。

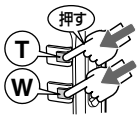




［決定］　：現在の設定を残します。
［再設定］：設定をやり直します。
［中止］　：現在の設定を解除し、トリミングをしません。

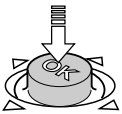
2 トリミングを行います。
トリミングの位置を決めます。

トリミングのサイズを決めます。

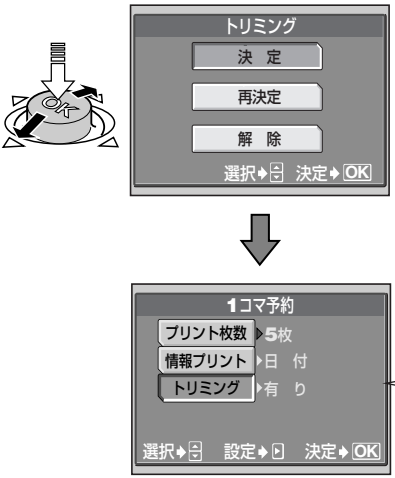


トリミング枠が最大、または最小になると枠の縦横が変わります。

3 設定を確定します。



4 [決定] を選択します。

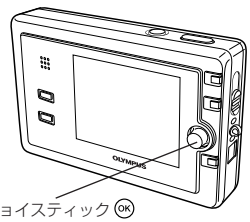


手順 6 の画面に戻ります。
☞P. 114

全コマ予約をする

カード内の全画像をプリント予約します。撮影日または撮影時刻のプリントを指定することができます。全画像1枚ずつのプリント予約になります。

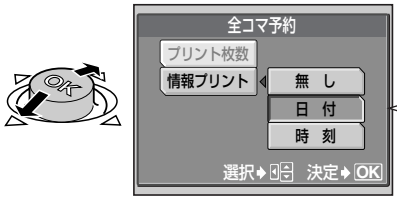
1 ［全コマ予約］を選択します。☞P.110



2 ［全コマ予約］の設定項目を選択します。

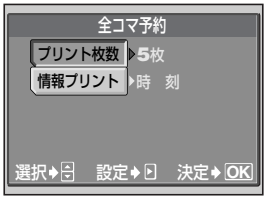
各項目の設定を選択します。

［プリント枚数］を選択した場合

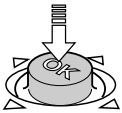


［情報プリント］を選択した場合
［無し］：画像のみプリントされます。
［日付］：すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
［時刻］：すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

3 各設定を確定します。

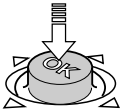


4 ［全コマ予約］の設定を確定します。

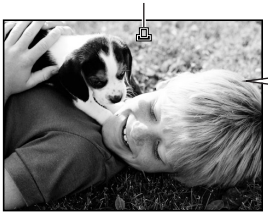


［モードメニュー］に戻ります。

5 メニューから抜けます。



プリント予約マーク



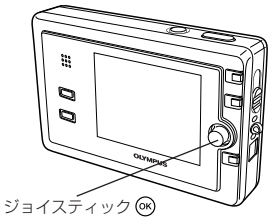
プリント予約された画像

プリント予約を解除する

プリント予約を解除します。すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

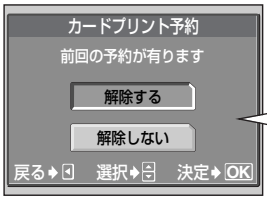
1 静止画を再生します。☞「1コマ再生」(P.60)

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択します。☞「メニューの使い方」(P.17)



すべての予約の解除

3 ［解除する］を選択します。

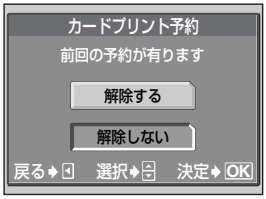


すべてのプリント予約が解除されます。

プリント予約した画像がない場合、表示されません。

1コマ予約の解除

3 ［解除しない］を選択します。

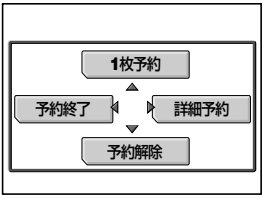


プリント予約モードを選択する画面が表示されます。

4 ［1コマ予約］を選択します。

5 プリント予約を解除したい画像を選択します。

6 ［予約解除］を選択します。

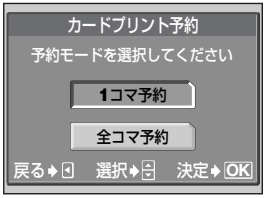


•手順 5 の画面に戻ります。
•他の画像のプリント予約を解除する場合、手順 5 と 6 を繰り返します。

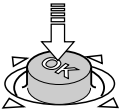
7 プリント予約の解除を終了するには、 6 の画面で［予約終了］を選択します。

8 プリント予約モードから抜けます。

2回押します。



9



メニューから抜けるまで繰り返し押します。

［モードメニュー］に戻ります。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞P.126
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞P.124～128）で［🖶 標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

プリンタのアクセサリ

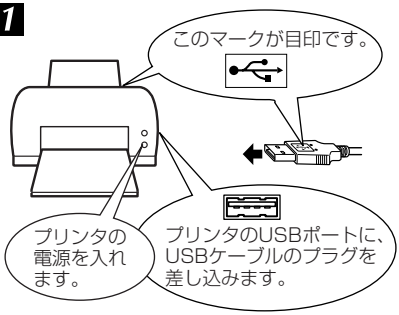
プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

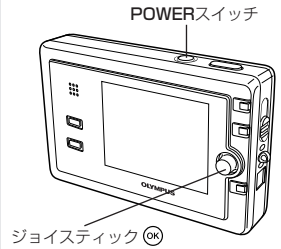
注意

- 電源には付属のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。

カメラをプリンタに接続する

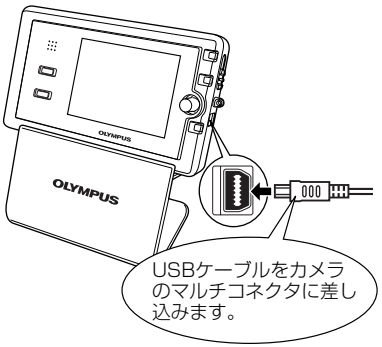
1





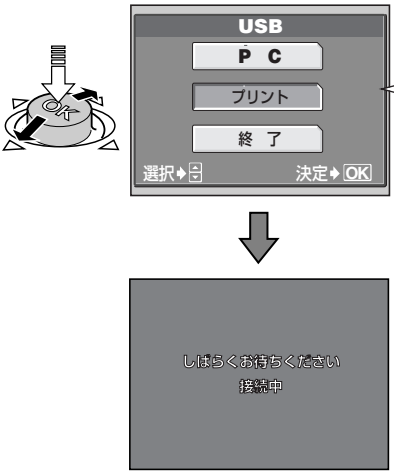
プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2



USBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 ［プリント］を選択します。



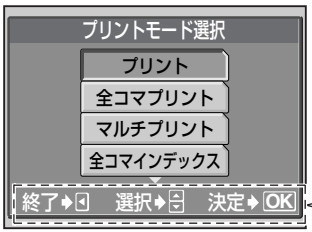
- ［PC］を選択すると、［プリントモード選択］画面は表示されません。USBケーブルを抜いて、手順 **1** からやりなおしてください。
- ［終了］を選択すると、プリンタに接続されません。 、 モードでは電源が切れ、 モードでは通常の再生に戻ります。
- 選択画面が消えたときは、**POWER**スイッチを押して電源を入れなおしてください。または、カメラからUSBケーブルを取り外して、手順 **2** からやりなおしてください。

4 「プリントまでの操作の流れ」（☞P.124）へ進んでください。

プリントまでの操作の流れ

カメラとプリンタが正しく接続できたら、プリントする画像を選んで予約したり、プリントしたい画像を表示して順にプリントします。
カメラのモニタの表示を見ながら設定をすすめてください。

ジョイスティックを△▽◁▷の方向に動かして設定する項目を選択します。

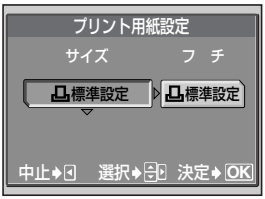


この部分に表示されるガイドに従って操作を進めてください。

プリントモードを選びます。

1枚ずつ画像を選んでプリントするか、まとめてプリントするなどを選びます。☞P.126

用紙の設定をします。

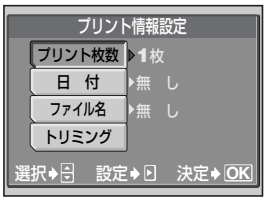


プリンタの設定に合わせて用紙の設定をしたり、フチのあるプリントにするかを選びます。

プリントするコマを選びます。

プリントしたい画像を表示します。表示している画像をすぐプリントするか、その画像のプリント予約だけをしておくことができます。

プリントする情報を設定します。



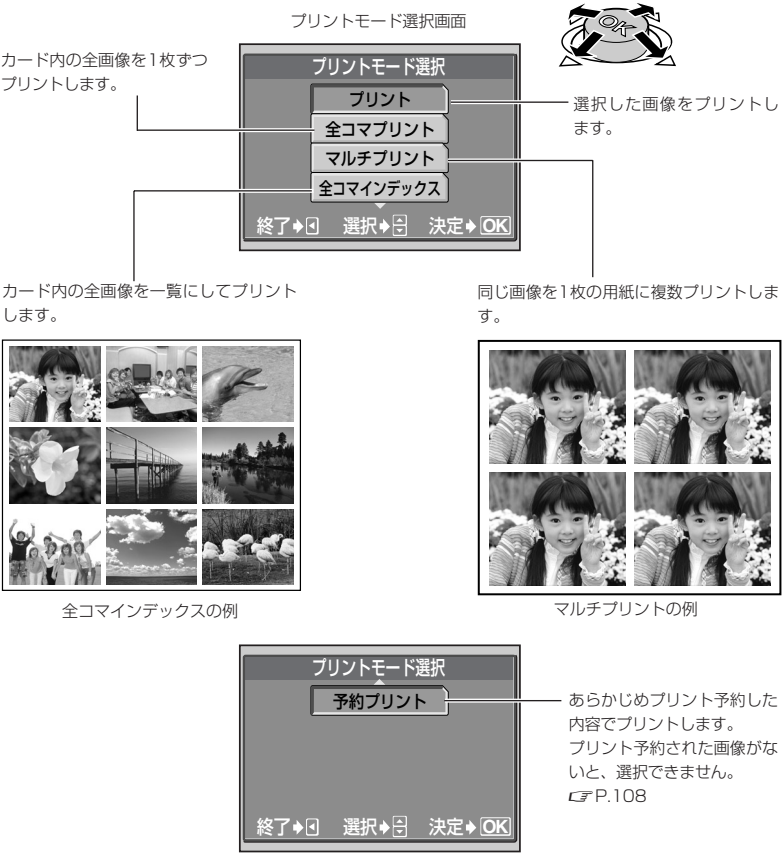
プリントする枚数、画像に記録されている日付情報やファイル名を同時にプリントするかどうか設定します。画像をトリミングしてプリントする設定もできます。

プリントします。

予約した画像をプリントします。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。 1枚ずつプリントするか、1枚の用紙に複数の画像をプリントするなどの選択ができます。

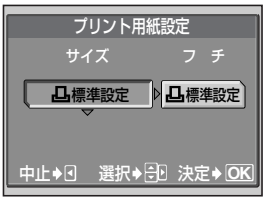


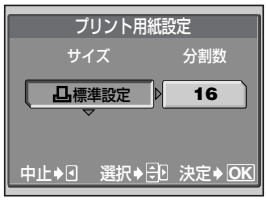
プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモードや用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をお読みください。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準の設定しか使えない場合は設定を変更することができません。





［サイズ］ プリンタで用意されている用紙に合わせます。
［フチ］ 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。
［分割数］ プリントモードで［マルチプリント］を選択したとき、この設定項目が表示されます。

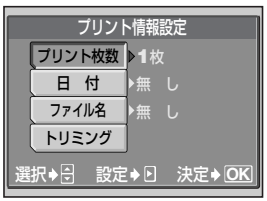
プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

［プリント］ 表示している画像をプリントします。［1枚予約］をした画像が1枚でもあると、予約されてる画像のみプリントされます。
［1枚予約］ 表示している画像をプリントする予約をします。［1枚予約］をしたら、ジョイスティックを◁▷に動かして、次に予約したい画像を選んでください。
［詳細予約］ 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。☞「プリントする情報を設定する」(下記参照)

プリントする情報を設定する

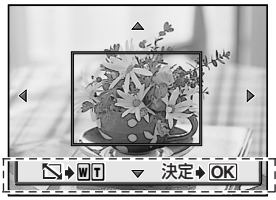
画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。



［プリント枚数］ プリントする枚数を設定します。
［日付］ 画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
［ファイル名］ 画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。
［トリミング］ 画像の一部を拡大してプリントします。

トリミングを設定する

画像の1部分をトリミングしてプリントできます。トリミングする大きさが小さいとプリントする際、拡大されるのでプリントが粗くなる場合があります。



ズームボタン**T**/**W**でトリミングのサイズを決めて、ジョイスティックでトリミングの枠を動かしてトリミングする位置を決めます。

プリントする

プリントする画像や内容が決まったらプリントします。

[プリント] プリンタへプリントする画像のデータを転送します。

[中止] プリントをやめます。設定してある予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、ジョイスティックを◁に操作します。一つ前の設定に戻ります。

プリントを始めてから途中で停止したいときは、ジョイスティックを押します。

[続行] プリントを続行します。

[中止] プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

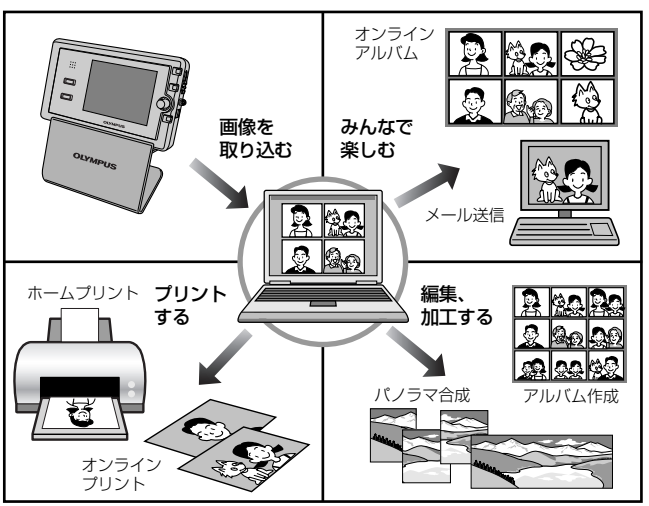
エラーコード表示がでたときは

- ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
- 対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。
- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」(P.150)をご確認ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

8 パソコンに取り込む

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もあります。スライドショーやHTMLアルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。



操作の流れ

カメラをパソコンにUSB ケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Master を使ってパソコンに取り込みます。

OLYMPUS Masterをインストールする ☞P.135

↓

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する ☞P.139

↓

OLYMPUS Masterを起動する ☞P.141

↓

画像をパソコンに保存する ☞P.142

↓

カメラをパソコンから取り外す ☞P.143

注意

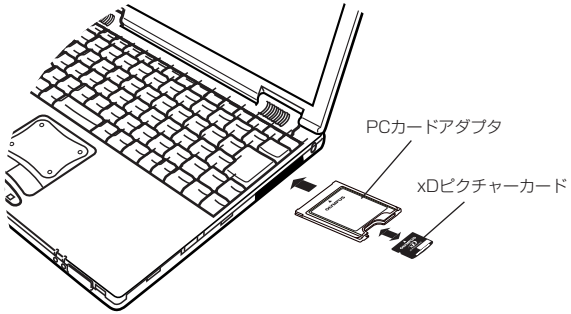
- カメラをパソコンと接続するときは、できるだけACアダプタを使用してください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

パソコンに取り込んだ画像

グラフィックソフトを使っての画像処理は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

xDピクチャーカードはPCカードアダプタなど(別売)で画像を取り込める場合もあります。詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。



付属のOLYMPUS Masterを使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

OLYMPUS Masterとは

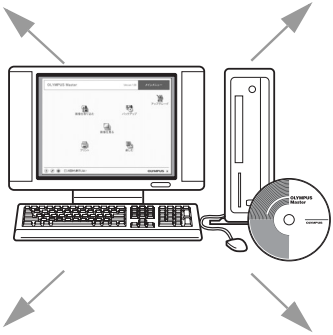
OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむための機能を持つアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードで、目的の画像をすばやくみつけることができます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

カメラやメディアから画像を取り込む



フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Master の［ヘルプ］および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Masterをインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。

新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

動作環境

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	PentiumIII 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB 以上
コネクタ	USB ポート
モニタ	1024x768ドット以上、 65,536色以上

注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional/XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザでログインしてください。
- パソコンにQuickTime 6、Internet Exlorer6以上がインストールされている必要があります。
- Windows XPはWindows XP Professional/Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

OS	Mac OS X 10.2 以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、 32,000色以上

注意

- USBポートが標準装備でないMacinoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- パソコンにQuickTime 6以上、Safari1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ&ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
- カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
- カメラの電源を切る
- カメラのカードカバーを開ける

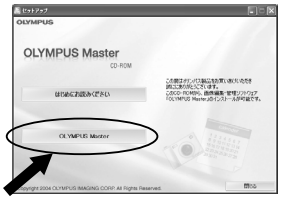
インストール

Windowsの場合

1 **パソコンを起動してCD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。**

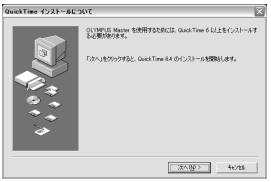
- OLYMPUS Masterインストール画面が表示されます。
- 表示されない場合は、［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、CD-ROMアイコンをクリックしてください。

2 **［OLYMPUS Master］ボタンをクリックします。**



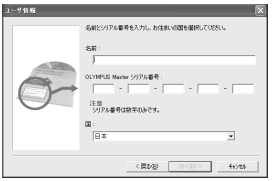
- QuickTimeインストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させる上で必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順 **4** に進んでください。

3 **［次へ］ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがって行います。**



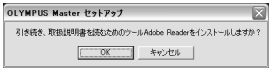
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［同意します］をクリックします。
- OLYMPUS Masterインストールの画面が表示されます。

4 **画面のメッセージにしたがって行います。**



- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［はい］ボタンをクリックします。
- 途中、ユーザ情報の画面が表示されたら、［名前］［OLYMPUS Masterシリアル番号］を入力し、お住まいの国を選択して［次へ］ボタンをクリックします。インストールが始まります。シリアル番号は、CD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。DirectXの使用許諾画面が表示されたら契約文をお読みのうえ、［はい］をクリックしてインストールを進めます。
- Adobe Readerをインストールするかどうかを確認する画面が表示されます。Adobe Reader はOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Reader がインストールされている場合は表示されません。

5 Adobe Readerをインストールする場合は、［OK］をクリックします。



- インストールしない場合は［キャンセル］をクリックします。手順 **7** に進んでください。
- 続いて蔵衛門体験版のインストール画面が表示されます。インストールする場合は［はい］をクリックしてください。

6 画面のメッセージにしたがって行います。

- インストール完了画面が表示されます。

7 ［完了］ボタンをクリックします。

- 最初の画面に戻ります。

8 再起動を求める画面が出たら［今すぐコンピュータを再起動する］にチェックをつけます。CD-ROMを取り出して［完了］をクリックします。

Macintoshの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- CD-ROM のウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合はデスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 ［インストーラ］アイコンをダブルクリックします。

- 画面のメッセージにしたがって行います。OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［続ける］ボタン、［同意します］ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

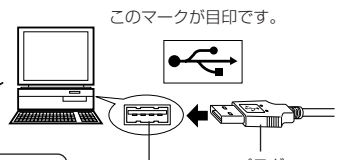
3 ［終了］ボタンをクリックします。

4 CD-ROMを取り出して［再起動］をクリックします。

カメラをパソコンに接続する

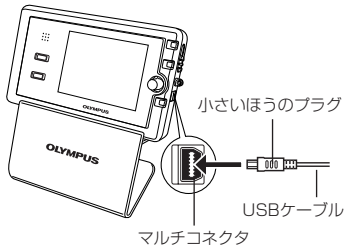
付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 **パソコンのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。**



USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

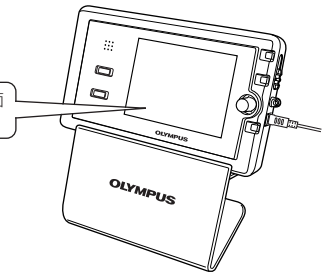
2 **付属のUSBケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。**

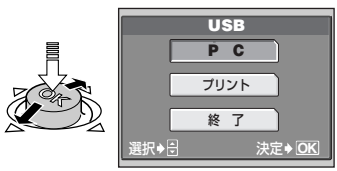


3 **［PC］を選択します。**

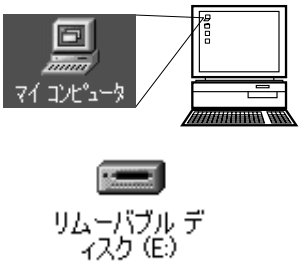
- 選択画面が消えたときは、**POWER**スイッチを押して電源を入れなおしてください。または、USBケーブルを一度取り外して、手順 **2** からやりなおしてください。

USBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。





4 **パソコンがカメラを新しい機器として認識します。**



- **Windows 98SE/Me/2000の場合**
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。
  ［OK］をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは［リムーバブルディスク ］として認識されます。

- **Windows XPの場合**
  パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。OLYMPUS Masterで画像を取り込みますので、［キャンセル］をクリックします。

- **OS Xの場合**
  Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

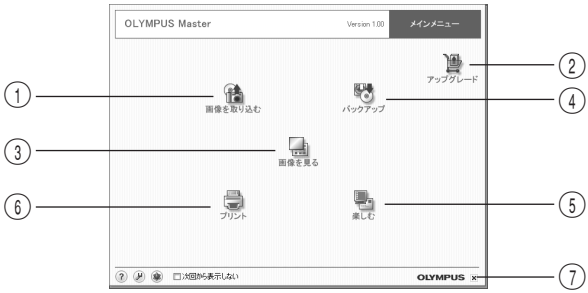
1 **デスクトップの （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**

- メインメニューが表示されます。

Macintoshの場合

1 **［OLYMPUS Master］フォルダ内の （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時にユーザ情報の画面が表示されますので、［名前］［OLYMPUS Master シリアル番号］を入力し、［国］選択してください。



① **［画像を取り込む］ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **［アップグレード］ボタン**
OLYMPUS Master PLUSへアップグレードできるダイアログボックスが表示されます。

③ **［画像を見る］ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

④ **［バックアップ］ボタン**
画像をバックアップします。

⑤ **［楽しむ］ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑥ **［プリント］ボタン**
プリントメニューが表示されます。

⑦ **閉じるボタン**
OLYMPUS Masterを終了します。

OLYMPUS Masterを終了する

1 **メインメニューで （閉じる）ボタンをクリックします。**

- OLYMPUS Masterが終了します。

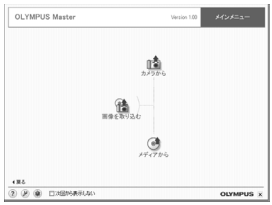
カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで（画像を取り込む）をクリックします。**

- 取り込み元を選択するメニューが表示されます。



2 **（カメラから）をクリックします。**

- 取り込み元のウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 **画像ファイルを選択し、［取り込み］ボタンをクリックします。**

- 確認のメッセージが表示されます。

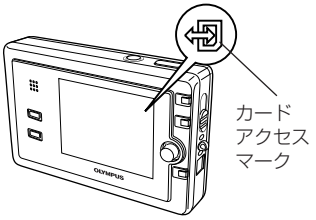
4 **［今すぐ画像を見る］ボタンをクリックします。**

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。
- カードアクセスマークが点滅している間は、絶対にカメラの電池／カードカバーを開けたり、ACアダプタを抜き差ししないでください。ファイルが壊れる可能性があります。

カメラを取り外す

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

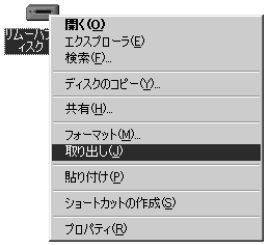
1 **カメラのカードアクセスマークが消えていることを確認します。**



2 Windows 98SEの場合

❶［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、［リムーバブルディスク］を右クリックし、メニューを表示させます。

❷メニューの［取り出し］をクリックします。



Windows Me/2000/XPの場合

❶システムトレイに表示されている［ハードウェアの取り外し］アイコンをクリックします。

❷表示されるメッセージをクリックします。

❸［デバイスは安全に取り外すことができます］が表示されたら、［OK］をクリックします。

Macintoshの場合

❶ デスクトップの［名称未設定］（または［NO_NAME］）アイコンを［ごみ箱］にドラッグ&ドロップします。

3 カメラからUSBケーブルを引き抜きます。

注意

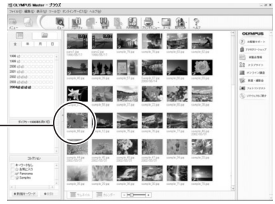
Windows Me/2000/XPの場合：［ハードウェアの取り外し］をクリックした際、［カメラを停止できません］という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、［ハードウェアの取り外し］の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画／ムービーを見る

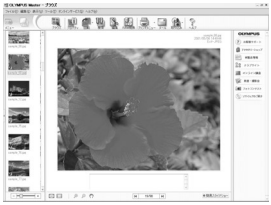
1 OLYMPUS Masterメインメニューで （画像を見る）をクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。



- ビューモードに切り替わり、画像を拡大されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。



ムービーを見るには

1 ブラウズウィンドウで見たいムービーのサムネイルをダブルクリックします。

- ビューモードに切り替わり、ムービーの1コマ目が表示されます。

2 ムービー表示部下側の再生ボタン▶をクリックするとムービーが再生されます。

- コントローラ各部の名称とはたらきは以下のとおりです。

	項目	詳細
1	再生スライダー	スライダーを移動して、任意のフレームを指定できます。
2	時間表示	再生中の経過時間が表示されます。
3	再生（一時停止）ボタン	ムービーを再生します。再生中は一時停止ボタンになります。
4	1フレーム戻るボタン	1つ前のフレームを表示します。
5	1フレーム進むボタン	1つ次のフレームを表示します。
6	停止ボタン	再生を停止し、先頭のフレームに戻ります。
7	繰り返しボタン	ムービーが繰り返し再生されます。
8	ボリュームボタン	ボリューム（音量）調整スライダーが表示されます。

プリントする

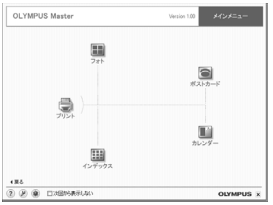
フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで （プリント）をクリックします。

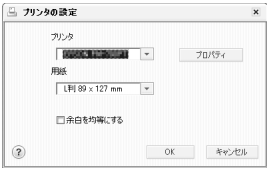
- プリントメニューが表示されます。

2 （フォト）をクリックします。

- フォトプリントウィンドウが表示されます。

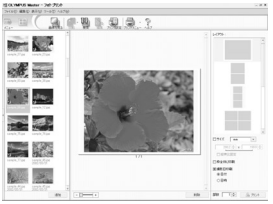


3 フォトプリントウィンドウの （プリンタ設定）をクリックします。
プリンタの設定ダイアログが表示されますので、必要に応じてプリンタの設定をします。



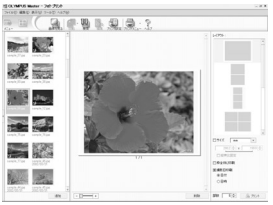
4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。

- 日付または日時を入れて印刷するときは、［撮影日印刷］にチェックをつけて［日付］または［日時］を選びます。



5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、［追加］ボタンをクリックします。

- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。



6 プリントする部数を設定します。

7 ［プリント］ボタンをクリックします。

- フォトプリントウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows ：Windows 98/98SE/Me/2000 Professional/XP
Macintosh ：Mac OS 9.0-9.2/X

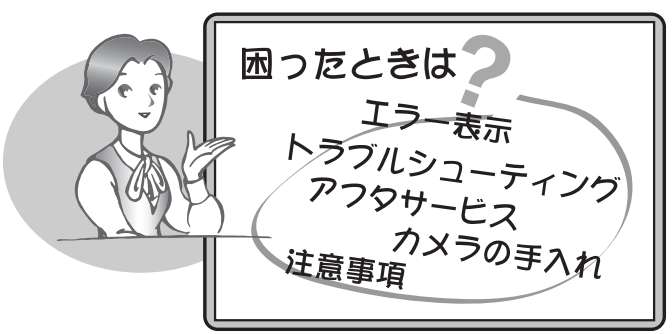
注意

- Windows 98をお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。Windows 98SEをお使いの場合は、OLYMPUS MasterをインストールするとUSBドライバも同時にインストールされます。
  （お使いのパソコンのドライブ名）：¥USB¥INSTALL.EXE
- 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。
  - Windows 95/NT 4.0
  - Windows 95 からアップグレードしたWindows 98/98SE
  - Mac OS 8.6以下のバージョン
    （ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています。）
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

9 付録

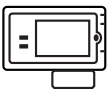
オリンパスからのお願いです。

カメラを使っていて困ったとき、疑問があったとき、ぜひご一読ください。エラー発生！、トラブルあり、うまく撮影できない、カメラの保管方法がわからない、難しい用語を調べたい、などを解決します。



エラーコード表示

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
日時設定がされていません	はじめてカメラを使用するときや長期間電池を抜いていたときは、日時が初期設定の状態になっています。	日時を設定してください。
カードを認識できません	カードが入っていません、または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って解除してください。
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに画像が記録されていないため再生できません。	カードに画像が入っていません。 撮影してから再生してください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
 この画像は 再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
 カードカバーが 開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。

故障かな？と思ったら

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
電源が切れている	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。**POWER**スイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	—
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	—
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
パソコンに接続している	パソコンとの接続中、カメラは動作しません。切り離してからご使用ください。	—
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	—
再生モードになっている	モードスイッチを ▶ 以外にしてください。	P.10
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、ϟ マークの点滅が終わってから撮影してください。	—
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.79
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（「電池残量がありません」と表示された後に液晶モニタが消灯した）	電池を充電してください。（カードアクセスマークが点滅中は、消灯するまでお待ちください。）	—
メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください	P.175
液晶モニタが消灯した		
電源が切れている	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。**POWER**スイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	—
ピント合わせのとき画面の色が乱れる		
シャッターボタンを半押ししたとき、液晶モニタに表示されている画面の色が乱れることがある	故障ではありません。ピントが合うと正しい色で表示されます。	—

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない		
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を［発光禁止］以外に設定してください	P.52
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを［強制発光］に設定してください。	P.52
モードスイッチが 🎞 に設定されている	🎞 ではフラッシュはご使用になれません。モードスイッチを 📷 にしてください。	P.10
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	—
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。	—
液晶モニタが見にくい		
液晶モニタの画像に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体に向けると、画像に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	—
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.96
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—
画像に記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	モードメニューの［日時設定］で日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.97
電池を抜いて放置していた	もう一度、日時を設定してください。	P.97
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
［設定保持］の機能が［しない］に設定されている	モードメニューの［設定保持］を［する］にしてください	P.82
ピントが合わない		
AFが苦手な被写体である	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.26
被写体が近すぎる	被写体との距離が30cm以内のときは、［スーパーマクロ］に設定してください。	P.41

原因	こうしましょう	参照ページ
画像が再生できない・よく見えない		
電源が入っていない	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。**POWER**スイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	—
撮影モードになっている	モードスイッチを ▶ にしてください。	P.10
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.96
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.77
1 コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	［プロテクト］を［オフ］に設定してください。	P.78
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号に［ビデオ出力］の設定を合わせてください。	P.99
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	—
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	—
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.53
フラッシュが［発光禁止］になっていた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。	P.52
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを［強制発光］に設定するか、測光を［スポット］に設定して撮影してください。	P.52 P.55
雪景色などの明るい（白い）被写体を撮ると、実際より暗く見える画像が撮れる	［ビーチ＆スノー］に設定するか、露出補正をオーバー（+）側に設定してください。	P.38 P.56
中央部が明るかった	中央部に明るいものがあると、全体が暗く写ります。露出補正をオーバー（+）側に設定してください。	P.56

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合ったホワイトバランスを設定してください。	P.57
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.52
ホワイトバランスの設定を間違えた	光源に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください	P.57
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	—
再生画像のピントが合っていない		
AF が苦手な被写体を撮影した	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.26
フラッシュが必要な暗い状況で［発光禁止］に設定していた（手ぶれ）	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。 ［発光禁止］で撮影する場合には、シャッター速度が遅くなります。カメラを固定するか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.52
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 シャッター速度が遅くなるほど手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影やフラッシュを［発光禁止］で撮影するときは、カメラを固定するか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	—
被写体が近すぎた	被写体との距離が30cm以内のときは［スーパーマクロ］に設定してください。	P.41
レンズに水滴がついていた またはレンズが汚れていた	レンズの水滴や汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、カメラクリーナ（付属）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。	P.157
パソコンでカメラが認識されない		
USBドライバがインストールされていない	OLYMPUS Master をインストールしてください。	P.136
カメラの電源が切れている	POWERスイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	—

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載の Ⓦ マークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

1 **POWERスイッチを押して、カメラの電源を切ります。**
液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 **電池とカードを取り出します。**
ACアダプタを使用しているときは、まず接続コードをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜きます。

3 **カメラの外側**
→ 付属のカメラクリーナでやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、他の柔らかい布をうすめた低刺激のせっけん水に浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタ
→ 付属のカメラクリーナでやさしく拭きます。

レンズ
→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、カメラクリーナ（付属）でやさしく拭きます。

カード
→ 付属のカメラクリーナで拭きます。

カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池とカードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池をカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

使用上の注意

使用条件について

- 動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、以下のような場所で長時間使用したり保管しないでください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。予めビニール袋などに入れて密封し、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。
  使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 電気接点部には手を触れないでください。

電池について

- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。使用できる機種については、カメラの取扱説明書でご確認ください。
- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**
- **詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。**

Li-ion

ACアダプタについて

- 付属のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず指定の電圧範囲でご使用ください。
- ACアダプタは室内専用です。
- 接続コードや電源コードをプラグやコンセントから抜くときは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。カメラ内の画像やカメラの設定値、機能にトラブルを生じる場合があります。
- 使用中、ACアダプタが熱くなることがありますが、故障ではありません。
- ACアダプタ内部で発信音がすることがありますが、故障ではありません。
- ラジオの近くで使用すると雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

カードのお取扱いについて

- 乳幼児の手の届くところに置かないでください。あやまって飲み込む恐れがあります。
- 間違った扱い方をすると内部データが破壊されます。以下のことに注意してください。破壊されたデータの復旧はできません。
  - 曲げたり衝撃を与えない。
  - 発熱物・発火物の近くや高温多湿なところ、埃の多いところで使ったり保管しない。
  - 水に濡らさない。
  - 端子部に直接触れたり金属物をあてない。
  - データの書き込み／読み込み中に電源を切ったり、衝撃を与えたり、カードや電池を取り出したりしない。
- カードには寿命があり、長期間使用すると書き込みや消去ができなくなります。その場合は新しいカードとお取り替えください。
- パソコンなど他の機器でフォーマットしたカードは、必ず使用するカメラでフォーマットしてお使いください。
- 他の媒体に保存したデータの損害、またカード内のデータ消滅に関し、当社では一切責任を負いかねますのでご了承ください。

液晶モニタについて

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

- **お名前（フリガナ）**
- **連絡先：** 郵便番号
  ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
  電話番号／FAX
  E-mail
- **製品名（型番）：**
- **シリアル番号（製品底面に記載されています）：**
- **お買い上げ日：**
- **問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：**

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- **ご使用のパソコンの種類：**
  パソコンメーカー・型番等
- **メモリの容量　ハードディスクの空き容量：**
- **OS名とバージョン：**
  （Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
  （Windows）コントロールパネルーシステムーデバイスマネージャーの内容
- **その他接続されている周辺機器名：**
- **問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：**
- **問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：**

用語解説

画素

画像を形成する最小単位の点の数。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

デジタルESP測光（electro selective pattern）

CCD出力によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。このカメラでは、測光でESPを選択することで機能します。

露出

シャッターを開いて、光をとり込むこと。また、画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

CCD（charge coupled device）

レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）

デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントショップやプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）

露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

JPEG（joint photographic experts group）

カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）

テレビの映像信号方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge

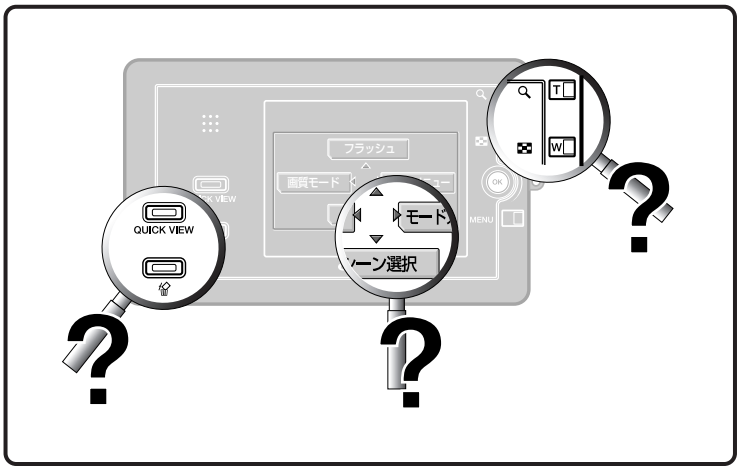
異なるメーカーや機種に関係なく、パソコンを介さずに直接接続されたデジタルカメラとプリンタによるダイレクトプリントが可能な標準規格。

TFT（thin-film transistor）

カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

10 資料

1章から9章で説明したカメラのすべての機能を網羅しています。
カメラのボタンや部位の名前、液晶モニタに表示されるアイコンの名前と意味、トップメニュー・モードメニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「各部の名称」や「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。



メニュー一覧

●撮影メニュー（ モード）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照ページ
モードメニュー	撮影	セルフタイマー	オフ、オン	P.42
		マクロ	オフ、、	P.41
		測光	ESP、スポット	P.55
		露出補正	−2.0～0.0～+2.0	P.56
		ドライブ	単写、連写	P.43
		ISO感度	オート、80、100、200、400	P.54
		デジタルズーム	オフ、オン	P.40
		スチル録音	オフ、オン	P.49
		パノラマ		P.44
		合成ツーショット		P.46
	画像	ホワイトバランス	オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯	P.57
	カード	フォーマット	フォーマット、中止	P.106
	設定	設定保持	する、しない	P.82
			日本語、ENGLISH	P.84
		PW ON 設定	画面 オフ、1、2	P.85
			音 オフ、1、2	
		PW OFF 設定	画面 オフ、1、2	P.85
			音 オフ、1、2	
		レックビュー	オフ、オン	P.89
		ビープ音	オフ、小、大	P.91
		操作音	オフ、1、2 小、大	P.92
		シャッタ音	オフ、1、2 小、大	P.93
		ファイル名メモリー	リセット、オート	P.94
		ピクセルマッピング		P.95
		モニタ調整		P.96
		日時設定		P.97
		ビデオ出力	NTSC、PAL	P.99
フラッシュ			オート発光、赤目軽減、強制発光、発光禁止	P.53

次ページへ続く

：初期設定

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照ページ
シーン選択			Pオート、夜景、夜景&人物、風景、記念撮影、パーティショット、打ち上げ花火、ポートレート、セルフポートレート、料理、スポーツ、ビーチ&スノー、寝顔、夕日	P.34
画質モード			SHQ — 2288 x 1712、3:2 2288 x 1520	P.29
			HQ — 2288 x 1712、3:2 2288 x 1520	P.29
			SQ1 — 2048 x 1536、1600 x 1200、1280 x 960（高画質、標準）	P.29
			SQ2 — 1024 x 768、640 x 480（高画質、標準）	P.29

●撮影メニュー（ モード）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照ページ
モードメニュー	撮影	セルフタイマー	オフ、オン	P.42
		マクロ	オフ、、	P.41
		測光	ESP、スポット	P.55
		露出補正	−2.0～0.0～+2.0	P.56
		ムービー録音	オフ、オン	P.49
	画像	ホワイトバランス	オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯	P.57
	カード	フォーマット	フォーマット、中止	P.106
	設定	設定保持	する、しない	P.82
			日本語、ENGLISH	P.84
		PW ON 設定	画面 — オフ、1、2	P.85
			音 — オフ、1、2	
		PW OFF 設定	画面 — オフ、1、2	P.85
			音 — オフ、1、2	
		ビープ音	オフ、小、大	P.91
		操作音	オフ、1、2 — 小、大	P.92
		ファイル名メモリー	リセット、オート	P.94
		ピクセルマッピング		P.95
		モニタ調整		P.96
		日時設定		P.97
		ビデオ出力	NTSC、PAL	P.99
手ぶれ補正			オフ、オン	P.58
画質モード			SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.29
デジタルズーム			オフ、オン	P.40

●再生メニュー（▶ モード）

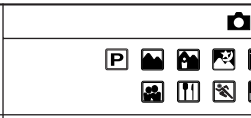
トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照ページ
モードメニュー	再生*1	回転表示*1	オフ、+90˚、0˚、−90˚	P.65
		プリント予約*1		P.108
		録音*1		P.69
	編集	モノクロ作成*1		P.66
		セピア作成*1		P.66
		リサイズ*1		P.67
		トリミング*1		P.67
		インデックス作成*2		P.73
		ムービー編集*2		P.75
		切り出し*2		P.72
	カード	全コマ消去	消去、中止	P.80
		フォーマット	フォーマット、中止	P.106
	設定	設定保持	する、しない	P.82
		言語	日本語、ENGLISH	P.84
		PW ON 設定	画面 オフ、1、2	P.85
			音 オフ、1、2	
		PW OFF 設定	画面 オフ、1、2	P.85
			音 オフ、1、2	
		画面登録	PW ON、PW OFF	P.87
		再生音量	オフ、1、2、3、4、5	P.90
		ビープ音	オフ、小、大	P.91
		操作音	オフ、1、2 小、大	P.92
		モニタ調整		P.96
		日時設定		P.97
		ビデオ出力	NTSC、PAL	P.99
		インデックス表示	4、9、16、25	P.100
		スライドショー設定	標準、スクロール、ズームダウン、ズームアップ、キューブスピン、モザイク、ブラインド、ランダム	P.101
	スライドショー*1			P.64
	ムービー再生*2			P.70
	情報表示		オフ、オン	P.105
	プロテクト		オフ、オン	P.78

＊1：動画のときは表示されません。
＊2：静止画のときは表示されません。

撮影モード別使用可能な機能

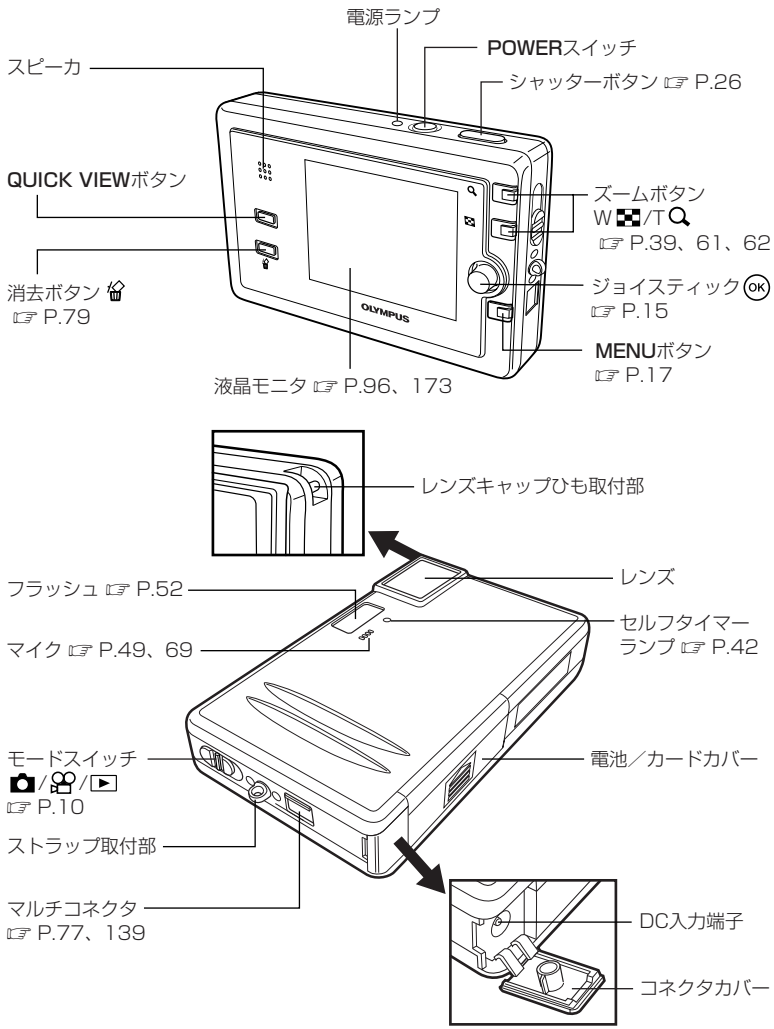
機能＼モード		
ズーム	✓	
QUICK VIEW	✓	—
フラッシュ　オート発光	✓（は除く）	—
フラッシュ　赤目軽減	✓（は除く）	—
フラッシュ　強制発光	✓（は除く）	—
フラッシュ　発光禁止	✓	✓
シーン選択	✓	—
画質モード	✓	
手ぶれ補正	—	✓
デジタルズーム	✓（は除く）	
セルフタイマー	✓	
マクロ	✓（は除く）	
スーパーマクロ	✓（ は除く）	
スポット	✓	—
露出補正	✓	
連写		—
ISO感度	✓	
スチル録音	✓	—
パノラマ	✓（は除く）	—
合成ツーショット	✓	—
ムービー録音	—	✓
ホワイトバランス	のみ。	✓
設定保持	✓	
	✓	
PW ON 設定	✓	
PW OFF 設定	✓	
レックビュー	✓	—
ビープ音	✓	
操作音	✓	
シャッタ音	✓	—

✓：使用可能　—：使用不可

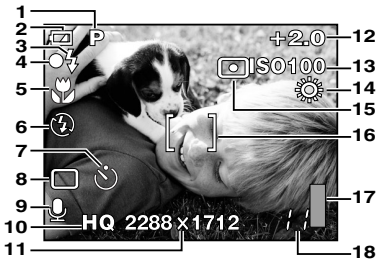
モード / 機能		
ファイル名メモリー	✓	
ピクセルマッピング	✓	
モニタ調整	✓	
日時設定	✓	
ビデオ出力	✓	

✓：使用可能　—：使用不可

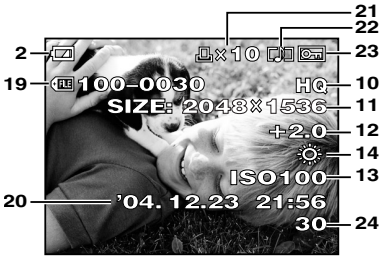
カメラ


電源ランプ
POWERスイッチ
スピーカ
シャッターボタン ☞ P.26
QUICK VIEWボタン
ズームボタン
W/T
☞ P.39、61、62
消去ボタン
☞ P.79
ジョイスティック
☞ P.15
MENUボタン
☞ P.17
液晶モニタ ☞ P.96、173
レンズキャップひも取付部
レンズ
フラッシュ ☞ P.52
セルフタイマーランプ ☞ P.42
マイク ☞ P.49、69
モードスイッチ
/ /
☞ P.10
電池／カードカバー
ストラップ取付部
マルチコネクタ
☞ P.77、139
DC入力端子
コネクタカバー

液晶モニタの表示

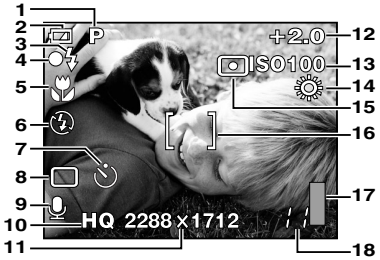


撮影時



再生時

	項目	表示例	参照ページ
1	撮影モード	P、、、、、、、、、、、、、、、	P.34
2	電池残量	、	P.175
3	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告・ フラッシュ充電	（点灯） （点滅）	P.52
4	緑ランプ	○	P.27
5	マクロ、スーパーマクロ	、	P.41
6	フラッシュモード	、、	P.52
7	セルフタイマー		P.42
8	ドライブモード	、	P.43
	手ぶれ補正（ムービー）		P.58
9	録音		P.69
10	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.29
11	画像サイズ	2288x1712、3:2 2288x1520、2048x1536、1600x1200、1280x960、1024x768、640x480	P.31
12	露出補正	−2.0 ～ +2.0	P.56
13	ISO感度	ISO80、ISO100、ISO200、ISO400	P.54
14	ホワイトバランス	、、、	P.57
15	測光モード		P.55



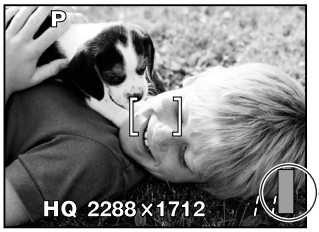
撮影時

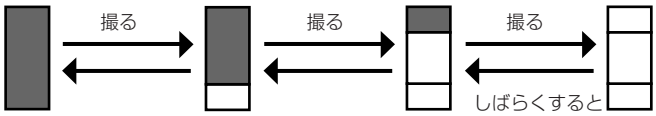
再生時

	項目	表示例	参照ページ
16	AF ターゲットマーク	[ ]	P.26
17	メモリゲージ	、、、	P.175
18	撮影可能枚数（静止画） 撮影可能時間（ムービー）	11 05 : 00	P.47
19	ファイル番号	100-0030	P.108
20	日時	'04.12.23 21:56	P.97
21	プリント予約・プリント枚数	X10	P.108
	ムービー		P.70
22	録音		P.69
23	プロテクト		P.78
24	コマ番号（静止画） 再生時間／記録時間（ムービー）	30 00:00/56:34	P.47

メモリゲージについて

静止画撮影した画像をカードに記録しているときには、メモリゲージが点灯します。メモリゲージの表示は、撮影状態によって以下のように変化します。
メモリゲージがすべて点灯したときは、しばらく待って消えてから撮影を再開してください。





撮影前
（消灯）

1枚撮影
（点灯）

撮影できません
（すべて点灯）
しばらく待って撮影前の状態に戻ったら次の撮影ができます。

電池残量マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように変化します。

点灯（緑）

撮影できます。*

点滅（赤）

電池残量が少なくなりました。早めに充電してください。

［電池残量がありません］と表示されます。

電池残量が完全になくなりました。電池を充電してください。

* デジタルカメラは、動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。その際は電池を充電してください。

索引

英数／記号

ACアダプタ 159
AFターゲットマーク 26
CCD 162
DCF....162
DC入力端子 172
DPOF ....108、162
ESP ....55、162
EV 162
HQ 29
ISO感度 54
JPEG 162
NTSC ....99、162
OLYMPUS Master....134
PAL ....99、162
PictBridge ....121、163
PW OFF 設定....85
PW ON 設定....85
Pオート 34
SHQ....29
SQ1 29
SQ2 29
TFT 163
USBドライバ ....135、147
xDピクチャーカード....133
1コマ消去 79
1コマ予約....111
3:2 31

あ行

赤目軽減 52
圧縮....31
インデックス再生 62
インデックス作成 73
インデックス表示 100
打ち上げ花火 36
エラーコード ....129、150
オート発光....52
オートフォーカス 27
オートホワイトバランス 57

か行

カード 159
カードアクセスマーク....143
回転表示....65
画質モード....29
画素 162
画像サイズ....31
画像編集....66
画面登録....87
記念撮影 35
キューブスピン 103
強制発光 52
切り出し....72
クローズアップ 再生 61
蛍光灯 57
言語選択 84
光学ズーム....39
合成ツーショット 46
コマ番号 174

さ行

再生音量....71、90
再生モード ....10、60
撮影可能時間（ムービー）....47、174
撮影可能枚数（静止画）....174
撮影モード 10
シーン選択....34
シャッタ音....93
消去....79
ジョイスティック 15
情報表示 105
スーパーマクロ 41
ズームアップ 103
ズームダウン 103
スクロール 102
スチル録音....49

スポーツ 37
スポット 55
スライドショー 64
スライドショー設定 101
晴天 57
設定保持 82
セピア作成 66
セルフタイマー 42
セルフポートレート 37
全押し 27
全コマ消去 80
全コマ予約 117
操作音 92
測光 55

た行

単写 173
デジタルズーム 40
手ぶれ警告 53
テレビ再生 77
電球 57
電池残量 175
トップメニュー ..... 17、22
ドライブ 43
トリミング ..... 67、115
曇天 57

な行

日時設定 97
寝顔 38

は行

パーティショット 36
発光禁止 52
パノラマ 44
半押し 27
ビーチ&スノー 38
ビープ音 91
ピクセルマッピング 95
ビデオ出力 99
標準（画質） 31
標準設定 121
ピント ..... 26、28
ファイル番号 108
ファイル名メモリー 94
風景 35
フォーカスロック 26
フォーマット 106
ブラインド 104
フラッシュ充電 53
フラッシュ発光予告 53
フラッシュモード ..... 52、53
プリント予約 108
プロテクト 78
ポートレート 36
ホワイトバランス 57
フェード 102

ま行

マクロ 41
ムービー再生 70
ムービー撮影 47
ムービー編集 75
ムービー録音 49
メモリゲージ 175
モードメニュー 23
モザイク 104
モニタ調整 96
モノクロ作成 66

や行

夜景 34
夜景&人物 35
夕日 38

ら行

ランダム 104
リサイズ.....67
リチウムイオン電池.....158
レックビュー 89
料理 37
連写 43
録音 69
露出 .....27、56、162
露出補正.....56

OLYMPUS®

オリンパス イメージング株式会社
〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1　新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について
製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。
オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）より「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口
カスタマーサポートセンター
フリーダイヤル **0120-084215**
携帯電話・PHSからは **0426-42-7499**
FAX **0426-42-7486**
調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。
営業時間　平日　9:30～21:00
土、日、祝日　10:00～18:00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先
TEL: 0266-26-0330　FAX: 0266-26-2011
〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮　3-15-1　オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00（日曜、夏期・年末年始休業、システムメンテナンス日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052 千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)3403
札　幌	〒060-0034 札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133 仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003 名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081 大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6995
広　島	〒730-0013 広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および夏期休業、年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

©2004 OLYMPUS IMAGING CORP.

Printed in Japan
1AG6P1P2294－－　VM027801